

福光地域 会議録

件名	福光地域提言実現検討組織による第5回会議		
日時	令和4年3月25日（金）19:00～21:10	場 所	市役所本館3階 302会議室
出席者	検討組織メンバー：（現地参加）13名、（オンライン参加）1名、事務局（政策推進課）：3名		
内容	①これまでの経緯の説明、②自己紹介、③企画案の追加説明、企画案について意見交換、④今後の進め方について		
概要	◆①これまでの経緯の説明 （●…メンバー発言、→事務局発言） （これまでの検討の経緯について、事務局から説明、資料1・2・3） →これまでの説明でご質問があればお受けし、ご説明した後で、議事を進めたい。 ●「庁舎の統合先が福光に決まったのに、福光地域に予算が付くのか？」という批判などは、他地域からはあったか？ →そのような話はない。もしハコモノを作るということになると、他地域から何か話は出てくるかもしれない。ソフト事業でも多額の予算が付けると、何かしら抗議が出るかもしれない。 ●福光高校の利活用の話はどのようになっているのか教えてほしい。 →福光高校については県主体で考えられている。「福光高校の建物を使ってどんな活用が出来るか」という内容でサウンディング調査をされた。子どもの遊び場、農産物の直売所など、いくつかの事業者から提案があったそう。具体的にどうするということなどは全く決まっていなくて、いくつかの事業者から提案された内容を受けて、具体的に中身を詰めた上で、再度、実際に誰がするのかという募集に入ると伺っている。現時点では、そのサウンディング調査が終了し、いくつかの事業者から提案をいただいたところで止まっている。いつ、どんなふうになるということは全く決まっていない状況だそう。 ◆②自己紹介 （●…メンバー発言、→事務局発言） （一人ずつ簡単に自己紹介をした） →ここまでは行政の方で進行させていただいた。本来ならば、ここで会長をすぐに決めて議事に入るところであるが、初めて会議に参加された方もおられるので、メンバーの皆さんの中から、本日の進行をお願いしたいがいかがだろうか。 出席者全員）異議なし。 ◆③企画案の追加説明、企画案について意見交換 （○…進行役発言、●…メンバー発言、→事務局発言） →資料3にもあるように、現在企画案が提案されているが、まちづくり検討会議からの提言を受けての内容となっている。どこを目指すのか、具体的に誰がやるのか、どういう仕組みで行うのか、というようになどを皆さんで詰めていただいて、この会議で了解が得られれば、福光地域の皆さんにもご説明しご理解をいただく必要がある。 ○事前に資料を読ませていただいたが、思いを形にすることが大事だと思う。その思いを形にしていく時に、形になったものが地域の皆さんにとって有益なものかどうか、ということが大事になってくる。誰がやるのか、お金はいくらかかるのか、場所はどこでやるのかなど、このようなことが骨組みとなっていくと、例えば、市議会での議論になった時に「もう少し醸成が必要」と言われかねないので、具体的な内容を積み上げながら、軽く積んだり崩したりを繰り返すこともあるだろうが、現実的な問題として形に出来るように話が出来たらと考えている。 資料3の「アクション概略」について、誰がやるのか、お金はいくらかかるのか、場所はどこでやるのかなど、5W2Hのようにきちんと決めていくことが重要だと思う。取り敢えず、資料の上から順番に内容を詰めていきたい。まずは、セルフリノベーション塾について具体的な内容があればお話を聞きたい。 ●資料は用意してあるが、まだ案の段階である。詳細を話し合うのはもちろんだが、実際に実行する会を立ち上げるものだと伺っていたが、このまま進んで行くようなイメージだろうか。 →実行する会というよりも、今回初めて参加される方もおられるということもあるが、提案していただいた内容について、誰がやるのかというような具体的な事柄が決まらなければ、実行にも移せない。誰がやって、次年度以降はどのように取り組んでいくのか、それが地域にどのような効果があって、地域の皆さんがどのように幸せになっていくのかという事も含めて、この会の皆さんが共通の認識を持っていないと、いきなり実行す		

ることは難しいように思う。

●この会のメンバーで、市民の皆さんに提案するところまで進めていくということか。

→少なくともこの会議メンバー皆さんの合意を得ないと、次の段階には進めない。

○この辺は直した方が良いとか、もっとこのようにした方が良いなど、いろいろな意見があると思う。

●本日の会議で細かい議論になるとは思っていなかった。

○こんな詳細を確認するような進め方は良くないだろうか？

→企画した人がどんなことを考えて企画したのかということは、会議メンバーの皆さんも認識しておく必要があるだろう。その企画を実施することで、地域がどのように幸せになるのかイメージ出来なければならないと思う。例えば、こういうことをやることで地域が元気になるとか。

●資料3の企画案はたたき台で、この会議でも「悪くないよ」との評価はいただいている。更に、アクションの部分をもう少し議論を深めてはどうかということだと思っている。まだ、会議メンバーの皆さんから意見をもらいたい。

○私も、本日が初参加なので認識不足の点もあるが、同じ会議のメンバーなのに、知っている人と知らない人がいるような状況は良くないので、この企画案について共通認識をしっかりとしていくためにも話し合って、まずはこの会議の地ならしをしたい。

→市としても、皆さんで取り組んでいただきたいと思っている。今回、各種団体からもちろん参加していただいて、地域として取り組んでいただきたいというところで、今回きちんとした組織になってほしいとの思いで進めてきたので、そこはしっかりと共通認識をしていただきたい。実際に進めようとした時に一部の人たちでやっている状況では、それを支援する立場の市としても支援できない。

●それと、会議の最後で良いので、この会の名前を決めたい。会長さんが決まるまでも良いので、前向きな名前を付けてほしい。

→この会議としては、皆さんの好きな名称をお使いいただければ。こちらは、庁内用に適当な名称を使わせていただく。

○セルフリノベーション塾について、持参された資料の説明をお願いしたい。

●（本日持参された資料の説明）

福光に住みたいという都会の方がたくさんおられるが、実際に住むとなるとリフォーム費用が非常に高額になって難しいと諦める方もおられる。現在福光に古民家を持ってもられたり、古民家に住んでいる人がおられたりするが、この家をどのように住みやすくすれば良いか分からない、リフォームしたいがお金がないなどの話をよく聞くので、セルフリノベーション塾を考えた。1年18回のカリキュラムで、持ち家の調査やこういう家を作りたいという妄想からスタートして、設計、予算とのすり合わせ、床下の状況確認、雨漏り修繕、というようなことをして、1軒の家を住めたり、お店が開業出来たりするような状態になるまでを考えている。18回全てのカリキュラムに参加するのは困難な方もおられると思うので、そういう方は壁塗りのみ複数回参加など臨機応変に対応出来ればと考えている。各カリキュラムを撮影し、Youtubeで配信して、それを見られた方が次の回から参加出来るようにするなど、参加者が広がっていくようにしていくことも有りなのかなと考える。市にお願いしたい部分は、講師代の支出、広報、工具類の貸し出しなど。資料中のフロー図にあるように、任意団体が物件オーナーを募集し選定して、物件を提供してもらったり、改装費を支払ったりするようなイメージである。物件の応募がなかった場合に備えて、1軒だけは目星を付けておきたい。この企画の実施にあたってのメリット・デメリットを挙げてみた。活動中のケガなどが心配なので、1日保険などには加入してもらおう予定。せっかくリノベーションしても上手く活用してもらえない可能性もある。みんなで取り組むことで何とかして活路が見出せるのではないかと考えている。収支について、既に、他所で実際に取り組んでいて、利益が出ているような試算になっている。今回の資料には入っていないが、50万円くらい支払って、その素材代を使って、3年間借りるということで、月5万円程度でギリギリ何とか出来るのではないかと考えている。カリキュラムについて、最近味噌屋町に事務所を開設された長尾佑哉さんという建築士の方をこの塾のコーディネーター候補者に考えている。まだたたき台の段階なので、皆さんからどんどんアイデアをお願いして、実現性のあるものにしていきたい。スケジュールは、来年4月の開講を想定して組んでみると、今年9月頃には塾生募集開始するなど、それなりに急いで進めることになると感じている。予算の概算は大雑把なので、もっと皆さんに揉んでいただきたいと思う。以上である。

○皆さんそれぞれにご意見はあると思うが、時間の都合もあるので、この説明を踏まえて次回会議でしっかりと話し合いたい。次に、手打ちパスタカフェについて、栗野氏から説明いただきたい。

- 私は、無農薬のトマト栽培を行っている。そんなオーガニック野菜を栽培しながら持続可能な農業を目指す、私を含めた8軒の農家が集まって「なんとのね」というチームを作っている。実は、この8軒以外にもオーガニック野菜している農家は市内にたくさんおられる。農作物を使った飲食店やカフェがあると、自分たちの栽培した野菜をPRする手段にもなるし、PRした上で新規就農者や農業の担い手を育成していけたら良いという思いがある。そのような飲食店を市内や福光のまちなか、里に作れたらと良いと思っている。手打ちパスタは当初のイメージであって、現在、オーガニックカフェという名目で話を進めている。現在、野菜をメインにケータリングをされている女性が市内に1名おられて、福光のまちなかで開業したいとの意向を確認していて、企画案のセルフリノベーション塾への参加も希望されている。セルフリノベーション塾でノウハウを身に付けた上で開業したいと意欲的である。まずは、彼女を軸に話を進めているところだが、彼女に限らず幅広く募集した方が名目上良いのかなと考えているが、その辺も含めて、皆さんからいろいろとご意見をいただきたい。
- 今の話については、誰が責任をもって取り組むのがキーになるのかなと感じた。次に、農泊体験について、どなたか説明していただけるとありがたい。
- 私から補足したい。メンバーの渡辺氏のなべちゃん農場には、年間100名ほどの農業体験希望者があるそう。1日限定の方から1週間程度滞在される方まで様々だそう。渡辺氏の自宅近くに市の移住体験ハウスがあり1泊1,000円で宿泊出来るそうで、渡辺氏も紹介しているそうだが、あまりにも福光のまちなかから離れ過ぎていて買い物も何も出来ない所なので、農泊体験者向けに、まちなかに安く泊まれる宿泊所があったら良いなどのことでの提案されたものである。日中はなべちゃん農場で農業体験をして、夜はまちなかに宿泊すれば買い物も出来るし、飲食店にも足を運んでももらえるだろうし、お風呂も入れるだろう。もし、そういうようなところがあれば、農業体験希望者に紹介したいとのことだった。農業体験希望者を受け入れるメニューはたくさんあるそうで問題はないが、宿泊出来るところが欲しいとのことだった。1泊1,000円など、破格で宿泊出来る所が欲しいそう。
- 昔のユースホステルのよう。
- ユースホステルも1泊1,000円などでは泊まらない。
- 民間でされている宿泊業とのすみ分けをどうするかが課題だろう。また、その辺を深めていきたい。次に、川沿いの環境整備についてお話を伺いたい。
- 私としては環境整備に限った内容ではないが、小矢部川はまち一番の観光スポットになると思うので、周辺の家並みをもっと雰囲気のあるものにならないだろうかと思った。小矢部川を中心とした景観づくりということで、お金は別として、芝居小屋などを整備するなどするイメージで、漠然と小矢部川の景観を良くして観光名所としてブラッシュアップを図りたいもの。
- 運営主体がどういう団体になるのか、また、自然相手でもあるので1年で終わりということでもないだろうから、事業の継続性をどのように捉えるのが課題になるのかなと感じた。次に、河原でのマルシェ開催についてお話を伺いたい。
- これも私から補足したい。小矢部川がその地域に住んでいる人たちや観光で訪れた人たちの心の拠り所になっているので、そこを活用して、イベントを開催してはどうかという提案である。提案者の方は、平日はなべちゃん農場で農業の勉強をして、土日は各所のイベントに出向いてたこ焼き販売のほか、お茶やコーヒー、他の飲食物を販売している。以前、東町で、松本さんとお仲間さんたちによりマルシェを開催していただいたが非常ににぎわっていた。そういうようなイベントを小矢部川の河原で開催するようなイメージである。また、前回の会議では、芋煮会開催の意見があった。地域住民が楽しめるようなイベントを小矢部川の河原で開催してはどうかという提案である。
- 芋煮会などは、年に数回開催すると良いかも。次に、川沿いの空き家の有効活用についてお話を伺いたい。
- 現在進行中である。昨年、小矢部川沿いの空き家1軒を仲間でセルフリノベーションし、昨年秋に中間的なお披露目と共に「蚤の市」というイベントを行った。イベントは予想以上に好評だった。当日は延べ200人程度の来場があった。主な販売品は、「片付け」をテーマに、空き家を川沿いの空き家を片付けるなどして出た遊休品や伐採した庭木を薪にした物などで、循環型の販売方法を取り入れた。吉村氏も言われるように空き家の活用は課題であり、私たちがセルフリノベーションした空き家は小矢部川沿いにあるという立地から、ゲストハウスやシェルターの的な所になれば良いとも考えている。単に空き家の活用だけではなく、複合的な活用の出来る居場所としていきたい。資料の中にある「河川清掃」に昨年から実際に「ノリノリ cleaning (クリーニング)」と銘打って取り組んでいる。4月2日・3日に私たちの蚤の市を含め各イベントが行われるが、翌週

- 9日(土)に「ノリノリ cleaning (クリーニング) 2022. 春」で河原の清掃活動を行う予定にしている。
- 続けて、たまりばについてもお話いただきたい。
 - 私自身が「ほっこり南砺」という地域の高齢者の方向けの居場所づくりに取り組んでいる。「居場所」というものが、高齢者に限らず、子どもや障がい者、あるいは外国人などにも必要で、いろいろな人が集えるような「みんなの居場所」を作っていきたいと考えて、たまりばを提案したもの。
 - どのくらいの人に来て、どのくらいの広さで、最低限どのくらいの設備が必要なのか、いろいろと考えが出てくると思う。最後に、なんと新聞福光版についてお話を伺いたい。
 - まちづくり検討会議からの提言書の中から、こういうことをやった方が良さだろうということで前回の会議で提案したが、私の中でもまだぼんやりとしたイメージしかない。
 - どのくらいの期間で発行するのか、誰が記事を書くのかなど、1枚発行するだけでも大変だと思う。福光は、各地域づくり協議会などで毎月発行されているようだし、城端は城端時報という地域新聞のようなものを発行されている方もおられる。ネタを集めてくれるだけでもなかなか大変だとも聞いているし、誰がやって、誰が配るのか、どこまで配るのか、あるいは、どこに設置するのかなど、課題はまだまだあるが、皆さんと内容を深めていけたらと思う。
 - 補足だが、なんと新聞福光版は1つの形に何となくまとめたものになっているが、元々は、皆さんはそれぞれに思いを持っておられるが、みんなが知っているわけではないので、もしこういうプロジェクトが進んだ場合には、それらを福光地域の皆さんに発信していきたいということが発端。例えば、発信した情報を基に、セルフリノベーション塾の塾生も地域の皆さん方々と交流するような機会になれば、「福光に住みたい」ということに繋がるかもしれない。やっていることを発信していけばどうかと考えている。
 - これは、新聞に限らず、SNS を使った情報発信によって、また仲間集めをしていくようなイメージだろう。様々なツールを使って輪を広げていくようなイメージだろうか。現在提案されている企画案について説明していただいたが、それらに対する様々な意見交換を自由闊達にしていいただければ良いかと思う。今回初めて参加の方もおられて、すぐにご意見も出ないと思うが、ちょっとした感想やコメントなどを石田氏から順番にお願いしたい。
 - 様々な活動案について、既に実行に移されているものもある。私は古民家の空き家を片付けて改装して、そこに住んでいるのだが、片付けと改装に2年掛かって、その間夫の実家に住まわせてもらいながら、通いで片付けや改装をやっていた。空き家のリノベーションは非常に良いが、その間、合宿というか、民泊できるようなことも考える必要があるかもしれない。完成するまで滞在したい人もいるかもしれない。農泊体験について、福光地域の既存のゲストハウスなどと交渉して格安で宿泊出来るようにするなど、既存施設に働きかけることで実現が早くなるのではないだろうか。蚤の市は、次の機会があれば、私も参加したい。小矢部川のにぎわいづくりについては、この会議メンバーの森松氏が桜の時期にイベント開催するなど聞いているので、そことも絡めて、第1弾として何か始めていけたら良いと感じた。
 - この会議でも、集まって話し合うが結局は進まかったなどが繰り返されていて、皆さんそれぞれにやりたい事や進めたい事がなかなか上手く進まないというような感覚を私なりに何となく感じていた。皆さんがそれぞれにこの組織がどういう位置付けなのか、皆さんそれぞれにやりたい事や進めたい事に対する組織レベルのレイヤーや大きさなどを徐々に整理して、心地よく、みんなで楽しく集まれるような会議体になったら良いと考える。芋煮会でもないが、他のメンバーの活動の情報に触れられたら良いとか、古民家でのリノベーションの経験をアキないづくりの企画案に活かすなど、メンバーそれぞれが心地よい関係で、楽しくお茶でも飲みながら進められる、楽しい会議になると良いといつも思っている。
 - 農泊について伺いたいが、先ほどの提案のように、農業体験希望者に対して、例えば、既存のゲストハウスに宿泊した場合の宿泊補助のような仕組みは可能だろうか？
 - 現在は、直接補助するような仕組みはない。例えば、この地域のこの田んぼでそこに住んで農業をやります、ということであれば可能かもしれない。今の話の農業体験希望者は、研修と言うか自分の技能を高めるために来ておられるので、その理由で直接補助するような仕組みは無かったように思うがどうか。
 - 無いと認識している。
 - 気軽に農業体験が出来るような仕組みがあると良い。宿泊費が高額だとそれだけで参加するハードルが上がってしまうので、せめて、宿泊費を半額になるような補助制度などがあると良いと思った。

- 持続可能は仕組みでないと続いていかないと思う。農業を習いに来られるからその人たちに補助するのは、市税を使う観点から市民のためになっているのかという話になると説明が難しい。こういう理由で必要だというストーリーが必要。
- 承知した。
- 最初に書類を見ていた時から随分とイメージが変わった。実際に前に進んでいる活動もあって、心強く感じた。私も若い時から様々なイベントを開催してきてそのために補助金もたくさんもらってきた。今は時代が変わって、補助金に頼るのではなく、自分で自己完結出来るような活動でないと継続していけない。今行われている活動に皆さんで寄ってたかって参加すれば良いのではないだろうか。まずは、蚤の市だろうか。そうやって人が集まれば、知恵も出るし、力も得られる。要になる言葉とすれば、あるものを使うということだと。お金をかけないで、身をかけて、リノベーションなどの活動を進めていけば良いと思う。
- 3人のメンバーが中心となって具体的に話を進めてくれて、私はそれを見守っている立場で非常にありがたいが、それではなかなか前に進まない。この段階で行政のお金を入れて進めないと、実現しないのではないかと考えている。これは行政の肝いりで、各地域のにぎわいづくりのためにやっていることと認識しているので、ジレンマを感じている。行政からお金を得るために、企画案の内容を詰めて、地域にも説明して理解を得ることが必要なのは仕方がないが、初期の段階からお金が必要だと思っている。
- まちづくりなので、多くの方の合意は必要だろう。やるからには誰が責任を持つのか、それは行政ではないということをご理解いただきたい。
- 地域の皆さんの知らないことが多過ぎると感じている。自分たちの活動はよく分かっているが、他団体の活動は全く分かっていないので、協目を見ながら、情報の共有を図ることが必要だと思う。情報の集約と発信は必要だと思っていて、例えば、Facebookなどでどんどん情報発信していけば良いと思う。また、助成金のある時は一生懸命やるが、助成金がなくなったら、会そのものが無くなっている状況をこれまで見てきたので、そんなことにならないようになってほしい。年齢的なこともあり、自分が主体的に物事を企画して動いていくことも困難なので、せめて応援団にはなりたい。それから、私も企画提案した殿様街道について、正に縦割り行政で関係課が動いているので、行政内部でも一体となって計画策定をしてはどうかと、先日提案してきたところ。地域のことは自分事となるようにしていきたいと思っているところ。とにかく、元気を出したい。
- 誰か一人が出来ていれば良いというものではない。持続可能な方法を考えていかなければならない。
- 助成金頼みではなく、自分たちが自分たちで出来る方法で、楽しみながらみんなでやるのが一番だと思う。素晴らしい提案もたくさん出されているし、無理のない範囲で、みんなで情報発信しながら、SNSを活用したり、ポスターを掲示したりしながら、楽しみながら活動していけたらと思う。
- 蚤の市のチラシ裏面でも紹介しているが、福光高校卒業生に向けて地域の方々からのメッセージを送らせていただいた。福光高校が閉校し地域とのつながりが全くなかった訳だが、最後のつながりとして取り組んできた。情報の集約と発信という点で言えば、ふくみつつには元地域おこし協力隊の方や「にほんご広場なんど」の代表の方のほか、いろいろな立場のメンバーが参加しているので、様々な方面から情報を集約して発信していけたら良いと考えていて、現在「つながりマップ」を作ることを検討している。ちなみに、ふくみつつの「つ」は通信の「つ」なので、情報発信していきたいと考えている。
- 小矢部川のにぎわいづくりということで、4月2日・3日に富山千本桜プロジェクトが主催の「ミズベリング」に商工会青年部として出店する予定。福光支部では、例年、親子ふれあい魚つかみフェスを行っているが、各種団体が協力して地域内のイベントを盛り上げていきたいと思う。
- 実現に向けて議論を重ねることはもちろん大事だが、なかなか前に進んで行かないので先が見えないということと、これからどういうふうに進めていかなければならないかというところを考えていく必要があると思う。
- 公共交通事業者として、公共交通を通して地域の皆さんがどのように幸せになれるのかを考えている。私は高齢者の方の話を聞く機会が多いので、高齢者に優しいまちづくりが出来れば良いと思う。また、私の子どもが、将来外に出たとしても、また福光に帰って来たくなるようなまちにしたいとは常々考えている。この会議に提案されている企画案の「そのためのアクション」に挙げられている取組について、やり方の部分で議論が続いてしまうのはもったいないので、期限を決めた上で、まずはやってみたら良いと思う。やってみて、結果が出た段階で、次のやり方を考えるのも良いと思うので、スピー

ド感をもって取り組んだ方が良いと思う。今後、どういうイメージで取り組んでいくのかというところが重要になるのかなと感じた。農泊体験の宿泊先については、滞在期間が人によって違うので一概に言えないが、例えば、1か月間滞在するのであれば、2週間は農業体験をし、残りの2週間は、資格が不要な内容で、無給で働いてもらうことで通常の半額で宿泊する。労働の対価としては市民に喜んでもらうことであり、もし働きが良ければ更に追加で報酬が得られるかもしれない。一旦期限を設けて、やってみたら良いと思う。

- 今の提案は興味深い。どういう形で出来るのかは分からないが、「まずはやってみる。試しにやってみる。」ということをやると早く進むのかなと思う。このリノベ塾を提案してから2年が経過している。周囲の状況も変化しているので、出来る時に出来るタイミングでやるようにして行けたらと思う。いつ出来るのかということが分かれば、モチベーションにもつながると思うので、その辺をいかにして解決していけるかが今の課題なのかなと思う。

- これから具体的にどのように進めていくかということについても活発な意見交換をして、行政にも投げかけていけば、前向きに進んで行けるのではないかなと思った。今後が楽しみになってきた。

◆④今後の進め方について（○…進行役発言、●…メンバー発言、→事務局発言）

○ある程度の人数でしっかりと議論すれば、先ほどのように「なるほどな」と思うような新たなアイデアが出てくるので、ある程度の人数で議論をするのは大切だと感じた。同時に、まちづくり検討会議の頃から長く参加されている方も複数人おられて、「いつまで議論を重ねるのか？いつになったら見通しが立つのか？」と感じておられるかと思うので、予め目標として「ここまでにある程度の形のものを出そう」ということをみんなの中で決めておくことが大事かと思う。それと、具体的に、誰が、何を、どうやって、誰が責任を持ってやるのかなどといった事を一度きちんと洗い出した方が良く思う。お金の掛かる企画案についてもしっかりと洗い出しをすることが大事かと思う。こういうことは、ある程度のスピード感を持って取り組むべき。例えば、この会議で期限を決めて、しっかりと具体的に積み上げていくように話を進めていく方が良く思うがどうか。

参加者全員）（異議なしの身振り）

- まちづくり検討会議のメンバーだった方で、今の企画案とまちづくり検討会議の提言の内容とがずれているという認識があることから続けてこの会議に参加されていないという方が何人もおられる。今の企画案のどこがまちづくり検討会議からの提言のどれに当たるのか、といった合わせをお願いしたい。そういうことが分かれば、私からまちづくり検討会議のメンバーにも説明がしやすいし、まちづくり検討会議メンバーの理解も深まると思う。そうなれば、協力も得られるかもしれない。

○まちづくり検討会議のメンバーについて教えてほしい。

→まちづくり検討会議のメンバーは15人。

→平成30年2月に初回会議が行われ、平成30年12月に福光地域の提言が提出された。本日配布の資料3である。

- 私は、今の企画案は、まちづくり検討会議からの提言を踏まえていることは理解している。まちづくり検討会議のメンバーにも誘っているが、「私たちの提言した内容はどこへ行ったのか？」と思っておられる。

- 具体的には、企画案のどの部分のことを言われているのだろうか。

○検討会議のメンバーの方なりの議論や考え方があってまちづくり検討会議からの提言を提出されているだろうから、それが具体化しないうちに今の企画案が提案されたので、「私たちの意見はどうなったのだ」ということなのだと思うが、どうか。

- おっしゃるとおり。

○検討会議の提案との溝をどのように埋めるか、になるだろうか。

- そこである。難しいところではある。

- 提言実現検討組織になってからは、まちづくり検討会議からの提言にこだわらずメンバーの人選が行われ、かつ、自由に提案してほしいということで議論してきたので、今さらそのようなことを言われても困る。私たちは私たちに一生懸命考えてまとめた。

- まちづくり検討会議のメンバーの方々には、この会議の参加についての声がけはされているのか？

→まちづくり検討会議のメンバーの方々には、提言実現検討組織を編成する際にメンバーとして残るかどうかの確認をしており、メンバーとして残るという意向を確認出来ている方には引き続き案内している。

私は、まちづくり検討会議の時から引き続いて担当者として携わっており、先のご意見

も十分理解できるし、今の企画案が非常に素晴らしい内容であることも十分感じている。ただ、この企画案がこの内容で決定しているわけではなくて、まちづくり検討会議のメンバーも今の企画案に「ここをもう少しこうしたら良いのではないか」といった話し合いが出来ないものだろうかと思う。そうすればもっと良い内容になると思う。

- だから、すり合わせが必要なのである。
- まちづくり検討会議のメンバーの方々にもこの会議に参加していただいて、ご意見をいただくのが一番良いと思う。この企画案は、出来る限りまちづくり検討会議からの提言に沿ってまとめたつもりである。足りないということであればどこが足りないのか、ということもアクションとして付け加えてはどうか、ということも言っていただければ、それらを肉付けして良いプロジェクトに仕上げていけば良いと思う。この企画案は、そういう意味でたたき台として挙げている。
- まちづくり検討会議からの提言とのすり合わせとして、まちづくり検討会議メンバーからの意見を求めるということは非常に大事なことであるが、それをどの時点で聞くのかということがポイントになるかと。今の時点で意見を求めることが良いのかどうか。ある程度現実的な内容にした上で意見を求めないと、意見を出しにくいように思う。
- 今の企画案の内容が、まちづくり検討会議からの提言のどことリンクしているのかということが読み取れば良いと思う。
- 今すぐではなくて、もう少し経って企画案の内容が具体的になってきた段階で、まちづくり検討会議メンバーからご意見をいただければ良いのかなと思う。どこかの段階で考えるということでご理解をいただきたい。
- 恐らく、「何を実現するためのものがほしい」というような事柄が足りないのだろうと思う。提言の中に具体的な内容がないのは他の地域とも同じなので、提言の実現という組織を立ち上げて、提言の具体的な内容を考えるという組織になっている。前回会議の段階では、まだ具体的なものになっていなかった。これからになるが、例えば、「こういったイメージで、こんな目標のところが足りない」というところが明らかになれば、それをこの企画案にどのように盛り込めるのかというところを聞いてもらえると良いのかなと。だからと言って、検討会議メンバーをこの会議に呼んで意見聴取するのも来られにくいように思うので、もし可能であれば、中山明氏の方で、どんなところが足りないのかこっそり聞いていただいて、報告していただければありがたい。
- 会議に水を差したようで恐縮だったが、会議を進める中でも検討会議メンバーに会う機会もあるので、この会議でこういう話が出たという事実を一応お伝えしておいた方が、それも踏まえて検討していけるので良いと思う。
- また教えていただきたい。ある程度のスピード感が必要だ思っていて、例えば、第●曜日など、会議の日を予め決めておきたいが、そもそも会議の頻度はいかがでしょうか。
- 会議の運営をどうするかという話をしないと前に進まないと思っている。ある程度組織を作る必要があると思っている。
- それは組織の代表を決めるという認識で良かったか？
- 本日は初めて参加の方もおられるので、こういう話し合いは非常に大事だと思うが、組織の代表を決めることが次回になっても良いのだろうか。
- 次回以降で良いのでは。次回は具体的なアイデアを持ち寄るなどしていただいて、たたき台として出ている企画案についてはそれまでにもう少し具体的に提案できるようにしてきて、次回会議で議論を深めれば良いと思う。
- 提案していただいた方々もなるべく具体的な方向に説明したり、また資料などがあったりすると、さらに前に進むのかなとも思うので、よろしくお願いしたい。
- 今後の会議の日程だが、例えば、本日は第4金曜日なので、毎月第4金曜日はどうか。
- とりあえず、次回の日程だけ決めればどうか。
- 次回会議を4月26日（火）にしてはどうか。4月26日（火）19時から、場所は、市役所側で調整してもらえるとありがたい。それと、宿題で、この会議の名称を一人1つ考えてきてほしい。
- 案内文書に盛り込みたい。

(以上)

◆次回会議

日時…令和4年4月26日（火）19時から

場所…福光会館（旧ベル）2階 サークル室2

福光地域 会議録

件名	福光地域提言実現検討組織による第4回会議		
日時	令和3年11月1日(月) 19時～21時10分	場 所	市役所本館3階 302会議室
出席者	検討組織メンバー：(現地参加)8名、(オンライン参加)3名、政策推進課：3名		
内容	①これまでの経緯の説明(資料1)、②企画案の発表(資料2)、③今後の進め方について、④意見交換		
概要	◆①これまでの経緯の説明(資料1、事務局からの説明) 【これまでの検討の経緯】 ・ 庁舎の統合に向けて、平成27年頃から議論をしている。 ・ 平成29年度に市議会からの「庁舎が無くなった地域の賑わいはどうするのか？」という議論を契機に、庁舎が残っても残らなくても各地域の賑わいづくりについて議論を進めてきた。 ・ 平成30年12月までの約1年間、延べ15回程、各4地域で議論していただき、その内容を提言書としてまとめていただき、市長に提出していただいている。 ・ その提言書を基に、更に議論が進められて、福光地域については長い間お休みしていた。 ・ 各地域の検討状況は次のとおり。 ＜井波地域＞ものづくりの拠点として庁舎建物を活用する、クラフトユニバーシティ構想案にまとめて、市に提案済み。賑わいづくりの方針が固まっているので、地元から提案された構想案が真に実現可能かどうかの検証を外部事業者に委託発注している。その上で、実現可能で、この後成功する、運営もしていけるという結果であれば、実際に整備に入っていく流れ。 ＜城端地域＞図書館機能や貸室機能などの公共機能に市民活動スペースを加えた複合交流施設を、庁舎の場所に整備したいとのことで、現在、改修案・新築案の比較検討調査業務を発注しており、並行して、庁舎の空いたスペース等を活用した市民主体の取組や貸室機能の実証実験を実施中。 ＜福野地域＞旧富山紡績工場跡地をどう活用するか、空き家の活用をどうするかなどを検討中。旧富山紡績工場跡地の利活用について、地域の合意形成に向けて準備を進めている段階であり、今後、地域の合意が得られれば、その構想案を市に提案し、事業化可能性の検証を外部事業者に行っていく流れ。また、福野地域の住民が中心となってローカルメディアサイト「ふくの〜と」を創設し、福野の情報を中心に毎日欠かさず発信している。 【福光地域の検討の経緯】 ・ 令和2年から福光地域の提言の実現に向けた会議が始まり、資料にあるような企画案を提案していただいたが、これらを受けたところで、コロナにより会議休止を余儀なくされた。 ・ 今年9月20日に準備会議を開いていただき、このあとどうやって進めていこうかということで話し合っていた。 ・ 今までいただいた企画案には良い内容が多いということで、それらを基にして、栗野氏、石崎氏、吉村氏でまとめていただいている。 ◆②企画案の発表(資料2、提案メンバーからの説明) ○まちづくり検討会議からの提言を第一に押さえている。いろいろなアイデアがある中で、どういうねらいで私たちは取り組んでいくのかということで、福光地域の将来、はどうしたら良いのかを考えた。 「目指す未来」…古きを活かし新しい暮らしを創るまち ・ 福光の歴史を活かして、新しい人が入ってきて活性化するようなイメージである。元々暮らしていた人たちも誇りを持って生活していける、そういったまちになると良いという思いが込められている。 「その未来にするためのプロジェクト」…小矢部川からはじめる新旧街里プロジェクト ・ 小矢部川が福光の景観や地域の住民の皆さんの心の拠り所になっているのではないかと考えて、そこにスポットを当てて、従来の商店街とは違うが、小矢部川に賑わいが戻ったら、そこから、まち中の商店街も人が流れるだろうし、また、小矢部川を拠点にして、里の人たちとの接点なども持てたら良いと考えた。 「そのためのアクション」「アクション概略」 1. アキないづくり		

- ・この会議のメンバーである石田香楠子氏が作ってくれた言葉で、「新しい商い」、「飽きない魅力的な街」、「空き家がない状態」を作ることから作られたもの。
 - ・その商いの種を作るために、現在の福光で店舗を1軒開業するのは困難だと思うので、何回かやってみる。何回かやってみるリピーターが来てお客様と仲間を獲得してもらおう。「よし、これでいつでも開店出来る」というような慣れた状態になったら、福光で開業してもらえば良いのかなと考えた。
- 1. アキないづくり a. セルフリノベーション塾**
- ・「空き家があってどうしよう」と話を聞くが、私は空き家を「素敵な宝物」だと思っている。まだ手の付けられていない、観光地化していない空き家がたくさんあって、活用していけたら楽しいだろうなと考えていた。そこで、福光地域まちづくり検討会議からの提言を踏まえて、考えたのが「セルフリノベ塾」である。
 - ・赤坂御所などの修復経験をお持ちで、井波で宮大工をされている佐々木棟梁に相談したところ、講師を引き受けてくださっているので、この方を中心に様々な建築家や工務店の方を講師にお招きしたリノベーションの塾を開催したい。
 - ・月2回のペースで全16回の開催。受講料は2万円と安価で、若い人にも参加しやすくしたい。
 - ・塾の様子はYoutubeで無料配信し、宮大工さんによるリノベーションの技術を見せつつ、「福光良いところだよ」ということもアピールしたい。
 - ・事業スキームについて、物件を3年間無料貸与してもらい、リノベーションに係る材料代はこちらが負担する形にしてはどうかと考えている。南砺市からは、講師依頼と講師謝金の支出について支援していただけたらと考えている。
 - ・塾生たちが、受講中に福光を複数回訪問することになるが、その間に、地域の人たちと情報交換したり交流の場を設けたりして、福光への魅力を感じてもらい、住みたいなと思ってもらう。
 - ・住みたい気持ちになった時に、移住や起業への支援や情報提供などを行い、移住や起業をしやすくする、という働きかけを行っていく。
 - ・これは要するに、人づくりである。商いや生業など、何かやってみたい人を育てるような事業になるのかなと思っている。
 - ・もちろん、単に移住だけでも構わない。低料金で、自分たちのリノベーションの技術を使って、移住したいという人を育てる。
 - ・平屋であれば、みんなで出来るところは自分たちで作って、メンテナンスも自分たちでやれる、というふうになっていくと持続可能な場所になるのではないかな。
 - ・今ある物を生かして新しいことをしよう！という、創る人が集う、活気のある街になり、それに触発されて皆が生き生きとする。その人たちが集う拠点が次々にでき、情報があつまり回遊できる街となるようにしたと考えている。
- 1. アキないづくり b. 手打ちパスタカフェ**
- ・栗野氏が3年前から栽培しているイタリアントマトのサンマルツァーノトマトを始めとする南砺市の自慢のオーガニック野菜を内外に発信することが目的。セルフリノベーション塾の1棟目のシェアキッチンを使用する予定。
 - ・福光のまち中で見ると、萱笑（そば）、どんたく（うどん）、ひろまる（ラーメン）が人気店で集客があり、いずれも手打ち麺である。そこに、手打ちパスタを持ってくれば、福光が手打ち麺のまちになるのではないかなと考えた。
 - ・南砺の美味しいオーガニック野菜を使ったメニューを提供する。
 - ・そういった野菜の加工品や総菜も販売し、地域の方や市外からの来訪者に提供するようなお店にしたい。
 - ・パスタ職人の募集を、田舎に住みたい人と田舎に住んでほしい地域とをつなぐマッチングサービスサイトのSMOUTを活用して広く募集したり、口コミや情報発信したりして、出来るところから取り組みたい。
 - ・今はネットショップも盛んなので、ネットショップを利用して全国に発信出来るような拠点にしてはどうかと考えている。
 - ・当初は、シェアキッチンで手打ちパスタカフェを臨時営業しながら1~2年営業していき、いずれは独立して、どこかまち中で営業していただければと考えている。
 - ・新規参入しやすい環境づくりということで、「セルフリノベ塾」でのシェアキッチンやシェアハウスなどの活用もあるだろう。まずはモデルケースを1つ作れば、次に参入しやすいきっかけとなるだろうと思っている。
- 1. アキないづくり c. 農泊体験**
- ・メンバーの渡辺吉一氏のところには、半年で100名程度の大勢の農業体験者が訪れるそうで、まちなかで泊まれるところがあると良いそうである。日中は田舎での自然な

環境で農業を体験し、夜は町で、賑やかな飲食店や飲み屋などを利用してもらい、ちょっとした町の雰囲気も体験してもらうことで、南砺市の目指す田舎暮らしに訴求出来るのではないだろうか。

- ・そんな方が利用出来るゲストハウス、シェアハウスなども、セルフリノベーション塾の塾生などと一緒に小矢部川沿いの空き店舗などをセルフリノベーションしていけたら良いのではと考えた。
- ・農業体験メニューは、現在も豊富にあるので、それらをもっと発信していったって、1週間、1か月間なりと滞在していただけるような、外部からの体験希望者を増やしていけたらなと考えている。

2. 小矢部川にぎわいづくり a. 川沿いでの環境整備

- ・現状をより良く整備する。現時点で見て、桜が歯抜けになっている箇所には植樹する。花壇やベンチの整備。公衆用トイレの増設ほか。

2. 小矢部川にぎわいづくり b. 河原でのマルシェ開催

- ・環境整備をすると同時に、そこでイベントを行い、人同士の交流が増やすことがねらい。
- ・渡辺氏から農業を学んでいる松本千尋氏は、地球環境や食をテーマとしたイベント「種まきキャラバン」を各所で開催していて、様々な方とのつながりを持って、自分たちの取り組みを広げているそう。小矢部川を利用して、そういったテーマを持ったイベントを開催してもらおう。
- ・セルフリノベーション塾の塾生や農泊の参加者にも参加してもらい、新たな福光の魅力として、そこからのつながりづくりを目指す。

2. 小矢部川にぎわいづくり c. 川沿いの空き家の有効活用

- ・メンバーの中山明美氏が取り組んでいる内容にも重なってくるのだが、まかない食堂とか、宿泊や仕事出来るワークスペースとか、今、南砺市が観光のツールの1つに挙げている「なんチャリ」の拠点にするだとか、今使われていない川沿いの空き家をそういったふうに活用していくと、川沿いに人の流れが出来て、それがまちなかへの波及も期待される。
- ・活用する空き家はリノベーションがベースになっていて、セルフリノベーションで自信を付けた人たちが、空き家を利用して活用していただけたらと切に思っている。

3. 情報の集約と発信 a. たまり場

- ・具体的な取り組みのイメージはないのだが、コミュニティカフェのように、開放された、人が気軽に入ってくる、そしてお茶が飲める、そこで地域の情報を仕入れることが出来る、といった場所を創設してはどうか。市外の方も地域の方も利用出来る場所である。
- ・長野県の下諏訪町に「マस्याゲストハウス (Masuya Guesthouse)」というのがあるそうで、そこをイメージしている。

3. 情報の集約と発信 b. なんと新聞福光版

- ・かわら版みたいなもので、もしこのプロジェクトが進んだら、小矢部川ではこういうことをやっているとか、まち中でこういうことをやっているとか、プロジェクトの内容を地域の方に発信し、地域の方にも知っていただいて、興味関心を持っていただくようなことを考えている。
- ・地域の方からもいろいろな情報を得られるようなきっかけにしたいと考えている。

「スケジュール」

(資料2「スケジュール」参照)

◆②-1 意見交換と質疑応答 (●…メンバー発言、○…提案メンバー発言、→事務局発言)

- 別々のテーマの企画が一つのストーリーになっているところが素晴らしかった。

①「セルフリノベ塾」では、お金の調達をどうするのか？

②このプロジェクトの終盤では、伝統文化が常駐小屋で見られるというのは難しいかもしれないが、福光の伝統文化・芸能が、毎日ではなくても、例えば、日を決めて定期的に観覧出来れば良いと思った。

- 先日、小矢部川の千本桜のグループの発会式に出席したが、小矢部川を中心に、福光地域を活性化したいという思いがあるそう。まずは、現在植えられている桜723本を1,000本に増やすというもので、それに併せて、小矢部川の河川敷に花壇を整備したり、年間を通じてきれいな河川敷整備を行ったりするという内容だった。考え方の方向性は同じなのだから、他方での取り組みを無視するのではなく、時々はこのグループとも連携しながら、お互いに良いところは取り合って相乗効果で活動していければ良いと思い

ながら聞いていた。

- 「セルフリノベ塾」の物件について、その不動産の所得はどのようにするのか？ どういうふうにして動いていくのが疑問だった。
- 使っていないからということで、家賃は無料で貸してくれる物件で、取り敢えず3年間は好きに使っても良い、改装しても良いと言われている。それを借りるというイメージである。3年経った後、もしかして、改めてそこを利用したいという人が買うかもしれないし、買わないかもしれないし、その辺はまだ見通しが無い。でも、無料で好きにしても良いよという物件にちょうど出会えたので、まず、その物件を活用することが手取り早いかなと思っている。
- 手打ちパスタのお店をさしたいそうだが、個人の起業の話でもあるように感じた。まちづくり全体との関連性が薄いように感じた。
- 正直なところ、自分の栽培したトマトをもちろん販売したいが、パスタ店が出来たからと言って、飲食店1店舗に卸す量はそんなに多くないと思う。私としては、南砺の食材をもっとアピールしたいという思いが一番強い。里の魅力を発信したいと思っている。個人店舗のイメージが強くなりがちだが、別にパスタに拘っている訳ではなく、そういうお店があったら良いなという話。ただ、具体的なお店を提示出来たら皆さんもイメージしやすいだろうと思い、パスタ店を選んだ。
- 要は、南砺の野菜を売るツールとしてのパスタ店だろうか。
- そういうことになるだろうか。私がそのパスタ店をやる訳ではなく、職人さんに来てもらって、その方にそこのお店を運営してもらう。要は、井波地域の新規開店されたパン屋のベーカーズハウスクボタをイメージしてもらうと良いかと。そこは、SMOUTで探していて、サイトに投稿してから2週間で決まったはず。
- 道の駅福光は非常に流行っているが、そことは違う、農家さんも多いし、南砺市内や福光地域で野菜栽培をされている農家さんの情報発信の場になっていけば良いのかなと。その辺は農家さん同士の横のつながりを広げていって、まちななか小矢部川に近い所にそういう場が1つ出来ると、地域の方も喜ぶだろうと思った。
- 小矢部川のことについては、たまたま、私も参画している「ふくみつつ」の活動の中から、今年の春から小矢部川の清掃活動を行っている。北島氏から紹介のあった、千本桜のメンバーやこの会議のメンバー、「ふくみつつ」も一緒になって小矢部川の環境整備につなげていけば良いと思っている。また、南砺産材の活用を促進している「なんと木くぱりプロジェクト」などとの関係もあると、森からまちに繋がって、そして海に繋がっていくという流れみたいなものも、一緒に加わってまちづくりに生かしていけるのかなと思っている。
- ①リノベーションが100万から150万円で出来るのかどうか疑問。もし、相当古い住宅であれば、水回りには結構費用がかかると思う。
- ②小矢部川の桜の話だが、桜の見た目は美しいだが、その近くに住んでいる人や畑をされている人からは虫が付いて困るそう。誰かが責任を持って桜の木の管理をしてほしいとのご意見もあり、管理出来ないのなら切ってほしいくらいとの話も聞くので、桜の木を植えっぱなしにするのではなく管理出来るような体制も整えていかないと、皆さんの理解は得るのは難しいのかなと。
- ③シェアキッチンについて、手打ちパスタ店は週3回程度営業されるとのことだったが、それ以外の時は誰かに貸されることはあるのか？
- 空いている時は別の方に借りてもらうことを想定している。1~2年目は、手打ちパスタ店が営業する想定。週3回営業されて、それ以外の日は別の方に使っていただく。もし手打ちパスタ店の営業日に別の方が使いたいということであればコラボしてもらって一緒に営業することもあるかと思う。
- 拠点をどうするのか。小矢部川河川敷という着目点は良いのかなと。私がリターンしてきた12年前には、小矢部川の河川敷が寂しいことになっていた。商店街も近接しているので、商店街も桜を利用するべきと思っていた。協力出来ることは協力したい。作っただが、どうやって管理するのか？ 今後何かを計画するときには、管理の面も計画に組み込むべき。荒木町や角田町側に軒を連ねていた飲食店が少なくなって寂しい。小矢部川の清掃ボランティアは、各会が小さく行っているのでも、何か一堂に会するようなことが出来ると良いのだろうか。福光人が一度に集まることが出来るとよいかと。水口幹夫氏から提案のあった、伝統文化や芸能については、福光にも太鼓、ちょんがれなどがあるので、様々な方に見てもらうのが良いと思う。素晴らしい企画であった。
- 6年ほど前から、山奥の集落の耕作放棄地で農業をしてきた。それが、想像のつかないほど人が来るようになった。不便な農業を求めてくる人の多さに、私も驚いている。都会の人たちが自然を求めて、不便でも、手探りでも、作って食べたい、経験してみたい。

私の想像をはるかに超えるくらいの人があるようになった。今は、移住よりも交流人口なのかなと感じている。ただ残念なことに、来られる方向けの安価な宿泊施設がないので、他所へ流れてしまっている。市で運営している体験ハウスは1泊1,000円だが、移住目的とかさまざまな制約がある。長期でも短期でも、雑魚寝や寝袋で寝る程度の設備で十分なので、管理する人の手間のかからないような宿泊施設がほしい、ということが農業をやりながら実感していること。せっかくなら町に泊まってほしい。町は、買い物が出て、交通の便が良い。里山へは市営バスも通っているので現場に通える。そういうのを活かせるのが良いのかなと感じている。皆さんがそれぞれに、まちづくりに対する構想をお持ちだが、今、私が直に体験しているので、その辺について、せっかく福光のまちづくりの中に加えていただきたいと言うか、その優先順位を上げてほしい。

● 皆さんがそれぞれに実際になすべきこととか、自分のやりたい事を持っておられて、感染症の中で、それぞれが動きながらなんとか乗り切っておられることを、銘々の情報発信の範囲で感じていた。今ほどの話からちょっと質問したいのだが、毎回新しい方が来られるのか？それともリピートの方なのか？

● リピートの方も、新規の方もいる。本当に凄くて、困っている。嬉しい悲鳴である。

● なるほど、そうなのか。現場で活躍している人の話を聞くと、まだまだ活かせる部分はあるなと感じた。あと、小矢部川は通るたびに、きれいだなと思う。今、何もない時期でも写真を撮っている人がいるくらいで、改めてきれいなところだなと思っている。小矢部川の歴史は知らないが、何か物語があると面白いのかなと思うことがある。

ちなみに、セルフリノベーション塾の1棟目の候補の一番手はどこにあるのか？

○ まちなかにあるお寺の隣家が候補になっている。

○ 技術を持つために実施するのはもちろんだが、気持ちも大事で、福光に住む、商いをするなどのモチベーション上げていただきたいと思っている。

● 全体のプロジェクトの内容を伺って、とても素晴らしい設計だと思った。私は、この流れの中で何が出来るのかを考えた時に、例えば、桜であれば、住んでいる方の目線からも、素晴らしいものとして、町の資産として、環境も整備しながら、というのは大前提に置きつつ。私は福光の旧町部で生まれ育ち、他の自治体と比較して福光の魅力を考えた時に、小矢部川が町の真ん中を流れていて、その両岸にはたくさんの美しい桜が咲いているという景観は、福光特有の美しい景色だと思う。環境が持っている魅力の最大値を引き出せるような取り組みを、私もやりたいと思っている。今は料飲組合が中心となって、春祭りに併せて桜のライトアップをされている。私は、まだ具体的な案は持たないが、照射の仕方を工夫するなどして、桜の花だけでなく河川にも光を当てて、美しい河川を演出していけないだろうかとか妄想を膨らませている。先ほどの話にもあったが、夜桜を見ながら、滞在時間を伸ばしていただけて、お酒や飲食などを楽しんでいただければと思う。小矢部川河川敷公園を1つのテーマパークに見立てて、福光にお越しただいた方が少しでも滞在時間を延ばしていただけるように楽しんでいただけることを作って行けたらなと思っている。ハード面でいうと、今ある福光の素晴らしい千本桜のライトアップというものをグレードアップさせたいなという思いがある。また、私は芸術関係の事業をしている関係もあって、何回か音楽のコンサートやパフォーマンスの制作などで、国内からお客様を呼んで来れるようなものを制作するのが自分の仕事かなと思っているので、今回発表していただいたプロジェクトに、何かそういうところで自分も肉付けさせていただけたらと率直に感じた。

● 実は、私は5、6年前から、空き家サポーターをやっている。昨年4月に、30代の女性が空き家を紹介してほしいと、突然私を訪ねてきた。彼女は、自宅の近所の空き家に移住された。その物件は1年空き家だったが、その家主さんから自由にリフォームしても良いとのことで、彼女の手作りで、非常にオシャレにリフォームされた。薪ストーブも入れておられる。先日、移住者のオンライン会議で、その彼女のお宅を紹介されていたが、以前の空き家が見違えるように変わっていた。台所、居間、寝室を女性らしい部屋に改装された。家主さんは、もし今の賃借人が今後引っ越していったとしても、すぐに次の賃借人が見つかるだろうし、家もそのまま使えるから、自由に使っていいよと言っているそう。正にお金を掛けていない。いつか皆さんに見ていただきたいくらい。非常にオシャレなお宅になっている。そういうことも出来るということを知っていただきたい。

● 小矢部川河川敷で、例えば、福野の特産の里芋を使って芋煮会でもやったら良いよ。

○ リノベーションがそんなに安価に出来るのか、という質問があったし、私も想像がつかない。説明にあった100万から150万円というのは、そのくらいだったら安いだろうという金額なのかなと。実際に、その金額でどの程度出来るのか、もう少し詰めたい。参考になる移住者の物件を見学させてもらえるのであれば、私たちもそれを見てイメージ

- を膨らますとか、どこまで出来るのかというところを勉強したいなと思う。
- セルフリノベーション塾の資金調達はどうか。
 - 例えば、1棟目のシェアキッチンであれば、どこかの団体がそのシェアキッチンを運営することになる。それは、私がやろうと思っているので、私が出金を出したいと思っている。私が全額出しても良いし、でもせっかくだから、たくさんの人に知ってもらうためにクラウドファンディングもしようかなと思っている。
 - 今回の企画案は、まだ、たたき台の段階であり、これまで出ていたアイデアを1つの形にしたいなという思いでまとめた。この企画案について、行政も前のめりにさせるためには、皆さん方の賛同と、「やるなら、こんなふうにやろうよ」などといったアイデアを肉付けし、プロジェクト自体を実現可能なしっかりとしたものにしていきたいと思う。なので、皆さんからも、こういうことをやってみてはどうか、こういうことに協力出来る、といったアイデアをいただきたい。他の地域に負けにくい魅力的なまちになっていけそうだ、という将来性を持って取り組んでいけたら良いと思っている。先ほどの皆さんのご意見から察するに、小矢部川の企画は良かったのかなと思っている。
 - 農業体験者で安価な宿泊施設がないとのことだったが、福光のまちなかにも複数の民泊施設やゲストハウスがあるが、これらの紹介はされているのだろうか？
 - もちろん紹介しているが、値段が高すぎるそう。1泊1,000円でないと利用してもらえない。市の体験ハウスが1泊1,000円だから、これと比較すると高く感じてしまう。
 - 質問のあった、パスタ店と地域との関連については、正直なところ、自分の栽培したトマトをもちろん販売したいが、パスタ店が出来たからと言って、飲食店1店舗に卸す量はそんなに多くないと思う。個人店舗のイメージが強くなりがちだが、私としては、南砺の食材をもっとアピールしたいという思いが一番強い。里の魅力を発信したいと思っている。
 - 南砺の野菜を売るツールとしてのパスタ店といったところだろうか。
 - そういうことになるだろうか。私自身がそのパスタ店をやる訳ではなく、職人さんに来てもらって、その方にそこのお店を運営してもらおう。井波地域に新規開店されたパン屋のベーカーズハウスクボタをイメージしてもらおうと良いかと。井波では、SMOUTを利用して探して、サイトに投稿してから2週間で決まったはず。
 - 道の駅福光は非常に流行っているが、農家さんも多いし、そことは違う、南砺市内や福光地域で野菜栽培をされている農家さんの情報発信の場になっていけば良いのかなと。その辺は農家さん同士の横のつながりを広げていって、まちなか小矢部川に近い所にそういう場が1つ出来ると、地域の方も喜ぶだろうと思った。
 - 別にパスタに拘っている訳ではなく、そういうお店があったら良いなという話。ただ、具体的なお店を提示した方が皆さんもイメージしやすいだろうと思い、パスタ店を選んだ。
 - 渡辺さんは空き家サポーターとのことだったが、どこかで、市内全部の空き家の情報を得られるということはあるのか？人づてで知っていくという状態なのか？
 - 私は、元JA勤務の経験を生かして、大体、どの家にどんな方が住んでいるのかを分かっているの、自分の地域だけなのだが、一人暮らしや二人暮らしの家についてはお住まいの方々が元気な時に「今後、自分が施設にでも入所したら、この家はどうか？家族と話しておいたら良いよ」との話を持ち掛けている。そうすると、先ほどの話の女性の家についても、以前からその家にお住まいの方などに話しておいたので、施設に入られた直後に家族から「誰か住んでもらえる人はいないだろうか？」との相談があった。そういう動きをするように、日頃から心掛けています。なので、家がそんなに傷まない。
 - 今お話された渡辺さんの発想が、これからの空き家対策の重要なポイントだと思う。
 - 空き家になってから年数が経てば経つほど家が傷んで、改修するにも手が付けられなくなって、費用がかさむ。なので、一人暮らしや二人暮らしになる時にその家族に、そのような話をし働きかけていく。「今後一人暮らしになって、施設に入る時に、家のことをどのように考えているのか？息子さんと話をし、売りたいとか貸したいとかという話になれば、すぐに私に言われ。」と、地域の人には私からアプローチしてきた。だから、意外と使える空き家があるので、空き家を探している人にすぐ紹介出来る。
 - ◆③今後の進め方について（●…メンバー発言、○…提案メンバー発言、→事務局発言）
 - 提案させていただきたい。このプロジェクトを考えていく中で、1つのプロジェクトとしてコーディネートして下さる人が欲しいと思った。一つ一つの企画案には主になって取り組んでもらえる方がおられそうだが、それらをトータルでつなげてくれる人を、例えば、地域おこし協力隊のような方にそういうことをお願いしたら、それぞれの企画案が生きるのではないかなと思っているのだが、皆さんどうだろうか？

- 福光地域の地域おこし協力隊については、メンバーの金 萍氏が今年の 1 月末に協力隊の任期を終えて、その後の話が進んでおらず、福光地域の協力隊が空白のままとなっている。もしこの会議でプロジェクトを固めて、地域おこし協力隊の所管の南砺で暮らしません課に提案していけたらなと思っている。
- 南砺で暮らしません課では「こういうふうにしてください」という形にはなっていないので、そこが難しいところなのかなと。どうしたら良いだろうか？南砺で暮らしません課から言われた条件が、顔の見える地域団体に週 3 回ぐらい派遣したい、というもの。
- 顔の見える団体というのは、具体的にはどういうものか。
- 基本的には、ここだと、地域づくり協議会なのかなと。
- 例えば、このプロジェクトを実施するにあたり、リノベーションや情報発信についての作業をする時に、吉村氏がフォローしやすい環境が良いのかなと思うが、吉村氏の櫻明堂が勤務先となっても良いのであれば、そんなふうに提案して、地域づくり協議会が受け皿になって、週 3 回ぐらい派遣してもらおう。他の曜日は、現地に出向いて、人とのつながりを持つようなイメージで、情報収集したり段取りしたりしていただければ良いのかなと考えている。
- 受け皿になる団体は、地域づくり協議会である必要があるのか？この提言実現検討組織も、顔の見える組織だと思うが。
- 南砺で暮らしません課が言っているのは、働く場ということだと思う。週 3 回は勤務されるということであれば、活動の拠点としての場が必要ということかと。櫻明堂であれば民間になるが、そこは南砺で暮らしません課の意向を確認させてほしい。
- この提言実現検討組織が受け皿となって、その交流センターにデスクを置いて、必要時は吉村氏の櫻明堂で仕事をする、というスタイルを南砺で暮らしません課に提案しても良いか。
- このような組織が受け皿になるのは、私の中ではイメージしていない。地域おこし協力隊は、元々はどこかの市民センターに属していた。最近は、地域づくり協議会に属しているということなのだろうか。まずは、この会議で「このプロジェクトで良いですね」と決めていただくこと。その上で、南砺で暮らしません課にはどんな条件が良いのかを確認させてほしい。
- 今後は、もう少しこのプロジェクトの肉付けと、もし、先の水口幹氏の意見で、伝統芸能のような部分についても勉強しなければならないし、森松氏も音楽とパフォーマンスのことでプロジェクトに加えて、もっとイメージを膨らませてプロジェクト自体を練り上げる。本日の皆さんの印象としては概ね良いとの感触を受けているので、もう少し煮詰める作業をして、市に提案出来れば良いかなと思っている。それでないと、地域おこし協力隊の申請は出来ない感じだろうか。
- 福光地域の中でも「こんなことは大事だよ」などと思っていただくことが大事で、個人的には良い感じにまとめられていると思った。ただ、福光地域の住民の皆さんにも認めていただかないと、「一部のメンバーで決めたないか」と言われるのはよろしくないと思うので、そういった機会を設けさせていただいた上で「これで行こう」ということであれば、上手く進められるのではないかと考えている。
- 内容としては、そこまで煮詰めなくても、現段階の内容でも良いということか？
- 随分良い感じだと思うが、もう少し詰めていただく必要があるかと。金銭的なことが気になるというか、誰がプレーヤーの中心になるのか？地域おこし協力隊が来たとしても、その後居なくなるかもしれない。そうなったら、誰がプレーヤーになっていくのかという話。後は、金銭的に行政として支援出来ること、皆さんが取り組まれること、プレーヤーが誰になるのかで変わってくるのかなと思う。不動産のことについても、取り組みれば良いとは思いますが、改修後の物件はどちらの持ち物になるのか、どういうやり方が良いのか。
- その辺も、結局はオーナーさんとの交渉になるし、プロジェクトについてある程度のゴーサインが出ないとオーナーさんとも交渉出来ないのでは、どちらが先の話になるのかというところ。
- それと、オーナーさんだけでなく、その物件の隣近所の住人にも了解を得ないと、のちのちのクレームになりかねない。まして、住宅が密接している場所なので、話し声がうるさいなどと言われる可能性もある話だと思う。
- 何となく、皆さんの思いは一緒なのかなと感じている。その中で、今までも感じていた事柄があったが誰も取り組めなかった、ということがあるのだろうと思う。では、ゴーサインが出て取り組もうとした時に、誰が中心となってやるのか。これもメンバーの負担がかなり大きくなるので、もう少し企画案を練って、若い方にも仲間に入ってもらったとか、もっと別のアイデアをお持ちの方に入ってもらったとかすると良いのかもしれ

ない。

●元々、行政の肝煎りで始めたことと認識しているので、この組織が地域おこし協力隊の受け皿にならないと言われると、ちょっと違うのではないかなと思う。アイデアを出して、ある程度内容でまとまったら、行政の方で進めましょう、ということで良いのではないかな？受け皿がないから、派遣出来ないというのはちょっと納得いかない。

→今後、行政が運営していくものであれば、そのような進め方で良いのだが。

●我々が自発的に行っていくことではなくて、元々、行政の方から「庁舎の跡地について考えて欲しい」ということだったかなと思うが。

→跡地というか、「地域の賑わいづくりをどうするか？」ということで、それは、建物を使うということもあれば、イベントをするということもあるだろう。それは誰がやるのですか？自分たちでやったとしても、今後の運営は誰がするのか、それに必要なお金はどうするのか、ということを含めて、考えていただきたいと他の地域にも言っていることである。例えば、建物を無くして何かを触る時にはいくらかお金をある程度、建物の無くそうと言っている地域にはそのように説明してきた。もしそうした時に、今後、一体誰が運営するのか、ということとその地域の方にもお話している。今回の企画案は非常に良いことだと思うが、それを行政がやっても結局上手くいかない。

●こういう内容であればゴーである、という基準みたいなものはあるのか？

→そこは、地域で納得していただいた段階で、ということ。お金については市議会の承認も必要にはなるが、まずは地域で合意が得られれば、それで前には進められるかと。井波も福野も、概ね地域の合意を得て、構想案の事業化可能性調査を行っている。

○地域の合意というのは、このような会を、大勢で、一般公開するような形で行うということか？

→他の地域ではそのようにされている。

●交流センターで、地域の皆さんだとか、地域づくり協議会長も当然だが、集めて、その場で、我々のプロジェクトについて説明するというイメージだろう。

→地域づくり協議会長とは限らないが、地域の住民の方に話をさせていただいて、「そのプロジェクトで良いね」という話になればそれで地域の合意を得たことになる。そうしないと、「お前たち勝手にやるとるないか」と地域の方に思われかねないので。

○この日にやりますと告知して、開催することになるのか？

→おっしゃるとおり。当然、地域づくり協議会長さん方にもお声がけさせていただいて、開催していただくことになる。

○この検討会議で、地域の皆さんに発表出来るところまで作って、そして発表させていただいて、その後に、地域おこし協力隊の相談をしていくことになるだろうか。

→地域おこし協力隊の話は、並行して調べていきたい。このプロジェクトが進むという前提で調べていくが、募集期間もあるので、すぐには採用に出来ないだろう。

●コーディネーターというのは、私たちのような年配者では務まらないから、是非ともお願いしたい。

○連携して考えてくれるような人は必要だと思う。

○SNSなどの情報発信であったり、いろいろなことにも取り組んでくれたりして欲しいなと思っている。

→地域の中で、主として携わってくださる方と地域おこし協力隊とをつなぐ役割の人も必要なのかなと。

○取り敢えず今は、この企画案の精度をいかにして上げていくか、というところだろう。

○もう1回ぐらい集まれば良いだろうか。

○一般向けにプレゼンする内容を再度、我々3人で練り上げて、再度、提言実現検討組織の会議に諮る、という流れになるだろうか。

○「この内容で地域の方々に提案したい」という形を作っていくということでよろしいだろうか。

●地域の方々というのはどんな範囲か。

→各地域づくり協議会へのお声がけはもちろんのこと、福光地域に住んでいる方々にも参加していただきたい。

○いつぐらいまでに開催しなければならない、というのはあるのか？

→いつまで、というのはない。他の地域でも、準備が出来た段階で開催されている。1回やっても、また開催してくれと言われている地域もある。

○年内は難しいだろうか。

●まちづくり検討会議の時は、2回説明会を行った。

○2回した理由とは？

●理解を得られなかったから。

○同じ内容で？
○1 回目の説明会から内容がかなり変わったから。
●それでもなかなか理解を得るのは難しかったので、年内に理解を得られるような案件ではないと思う。
○年内に1 回くらいは説明会を開催出来るだろうか？
→ここの作業次第になるのかなと。
●その当時は、どういう人たちが対象で参加していたのか？
→まちづくり検討会議の意見交換会には、地域づくり協議会の皆さんにもお声がけさせていただいたし、一般住民の方にもお声がけさせていただいた。
●どこの地域づくり協議会に声がけされたのか？
→福光地域全ての地域づくり協議会である。まちづくり検討会議の時は平成 30 年 7 月と 10 月か 11 月の 2 回開催したが、福光地域全体に告知して、参加があったのは旧町部が多かった。地域づくり協議会の会長さん方への説明会も行ったし、一般の方向けの説明会も行った。
○内容を煮詰めるのに非常に時間が掛かって、発表してまた練り直しとなると、更に時間が掛かって時間がもったいないので、今回の企画案に、小矢部川のイベントとして、芋煮会や音楽イベントなどのアイデアも追加して、更に伝統芸能の拠点みたいなものももう少し具体的なイメージにして盛り込んで、それらをひっくるめた内容で提案するのはどうか？
→どちらかという、運営のスキームが大事かと。
○どういう組織がどうする、というようなところか。
●内容は後から何とでもなるので、まずは母体を作ってかからないと、後々続かない取り組みとなる。
→そこが一番大事かと。誰が見ても、運営出来るの？とか、経営が成り立つの？とかという話になる。
○例えば、この会の名称は別として、水口幹夫氏をリーダーにして、その下には実際のアクションプレイヤーがいて、その人たちをコーディネートしてくださる地域おこし協力隊がいる、というイメージでもよいか。
→地域おこし協力隊は、例えば事務的な補完するような、お手伝いさんのようなイメージかと。
○他のメンバーよりもリーダーが一生懸命にやらなければいけないとは思っていない。
○井波地域の「いなみ まちプロ」のような感じかと。
→井波地域の場合は、トップに地域づくり協議会井波連合会があって、「若い人の取り組みを守るぞ」といった感じの雰囲気がある。ワーキンググループというか活動自体は、若いジソウラボのメンバーが中心となって行っている、というような形である。今後、地域の方に話を聞きに来ていただく時には、そういう形にしておいた方がいいと思う。「どうしてこの人たちがやっているの？」と経緯をいくら説明してもそんなふうに見られてしまう。出来れば、水口幹夫氏や北島氏から福光地域全体の地域づくり協議会の中で、福光地域でもこういう活動が行われているということを、内容が少し決まってきたということでお伝えいただきながら、全体で応援してもらえないか、という話をさせていただくような流れに持って行っていただけないかなと思う。
●どこかの段階ではそれが必要かと思っていたが、既にこの段階で必要なのだろうか？
○仮に、プロジェクトをやる団体を作ったとしたら、水口幹夫氏が一応、会長で、北島氏と水口芳美氏には副会長みたいな感じにしてもらって、その下にアクションプレイヤーがいる、という感じ。そういった感じで 1 つ作ってはどうかと。
●そういう個人名はともかくとして、福光地域全体の地域づくり協議会長の面前という場で説明していく必要はあるのかなと。
→地域の方々に対して説明していく時には、まずは地域づくり協議会長さん方に説明した上で、という流れもあると思う。福野ではそのような流れで進めている。
○説明した時に、必ず「誰がするのか」ということは皆さん気になると思う。賛同していただいても「誰がやるのか？」みたいなところで、その場で「架空の団体がやります」という話をするよりも、「ここにいるメンバーが主体となって関わっていきます」という形を言えた方が良くと思うが、どうだろうか。
→それが一番良いかと思うが、それはそれで覚悟が必要になるかと思う。
○現段階ではこういうつもりでいる、との説明をした方が良くだろう。
→水口幹氏には、ぜひ、こういった活動をバックアップするような体制を作っていただければ、恐らくやりやすいのではないかなと思う。
参加者全員）その方がやりやすい。
→地域づくり協議会でもこういった活動を応援していますよと。

- この構想の段階で、まともに聞いてくれるとは思えない。
 - 今回の企画案をどこまで、いかに説明出来る段階まで作り上げていくか、だろうと思う。そうしないといつまでたっても同じ話にしかならないので、説明出来る段階まで作り上げて、説明して、理解をしていただけるか。まちづくり検討会議の時は随分粗い内容での説明だったが、今回の企画案は、この提言の実現に向けてかなり精度は上がっていると思う。
 - 地域づくり協議会にはどこかの段階で、いつかは話しなければならない。内容について賛否を問うのではなく、こんな感じでやっていますとの報告的な内容の話は必要。
 - 前に進めるためには、バックアップがないとやりにくいだろうと思う。お金を出してくれなどの話ではなく、活動自体を皆さんが理解した上で進めているんだよ、勝手にやっているのではなく、福光地域をいかに良くするための活動であるから、地域づくり協議会としてのバックアップをしていただきたい。福野も井波もそのような感じで進めている。
 - 反対ではなく、賛成してほしい、ということ。
 - 反対しないでほしい、ということか。
 - そういうことである。
 - 賛成、ということになれば、この企画案がもう少し進められるということだろうか。
 - そのとおり。
 - 仲間がもっと増えるかもしれないし、声が掛けやすくなるかもしれない。
 - この企画をもっと肉付けすることは出来そう。全体を通してストーリーとしては、「将来こんなことを目指している」ということで賛同をいただいて、「それに向けて具体的に取り組んでいきます」ということを賛成していただく、というような感じで良いだろうか。
 - 先ほどの渡辺氏の話にあった、ほとんどお金を掛けなくても素敵な感じでリノベーションが出来るということも、例として入れれば良いと思う。
 - 渡辺氏が紹介してくれたお宅を早く見学して、説明資料にも使わせてほしい。いくらぐらいで、こんな感じのリノベーションが出来た、とも説明出来る。
 - どんな物件を選ぶのかにもよるが、リノベーションの範囲を限定してはどうか。
 - 1棟のうち、本当に使いたい箇所だけリノベーションしたいと考えている。
 - ◆④意見交換 (●…メンバー発言、○…提案メンバー発言、→事務局発言)
 - 次回の会議はどうするか？この場で次回の日程を決めていただく。再度、3人のメンバーで企画案を練り直していただいて、企画案が出来上がったらご連絡をいただいて、次回の会議を開催するか。オンライン会議も可能。
 - 出来るだけ早い段階で、私の方で個別に水口幹夫氏や平野氏の意見を聞いて、作り上げるメンバーで煮詰めて、準備が整ったら皆さんにご連絡するような方法で良いだろうか。その間に渡辺氏ご紹介のお宅にも見学に伺いたい。
 - 先方にもお話したい。先日、移住者の Zoom 会議をやった時に、その方が自宅の内部をカメラで映して会議参加者に紹介していたが、その時の会議を録画していなかっただろうか。市の方から、なんと未来支援センターの林氏に確認してみしてほしい。もし、無かったら、私がその方に見学の依頼をするので。
 - よろしく願いしたい。
 - 来年の桜の時期は大事にしたい。
 - それを一つの目標にしたい。プレでも何でも良いから、出来るメンバーでも取り組んでいきたいね。
 - 来年の春休みに、清掃活動をしたいと思っている。春休みの子どもたちにも参加してもらえ形に出来たらと考えている。
 - ぜひやりたい。
 - 別途、日程等調整させていただいて、その上で会議開催案内も郵送したい。
- (以上)

◆次回会議
 日時…未定
 場所…未定

■福光地域の検討の経緯

平成30年12月 福光地域まちづくり検討会議からの提言書を市に提出

【テーマ】今あるものを活かした にぎわいづくり

- ①情報の集約と発信できる居場所
- ②まちなかエリアを回遊できるまちづくり
- ③里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する。

令和2年1月～3月 福光地域提言実現検討組織会議開催

提言書の実現に向けて、福光地域提言実現検討組織の会議などにおいて、提出していただいた企画案は次のとおり。

提案者	タイトル（案）	提言のテーマ(方向性)との関連
中山 明美 氏	みんなの居場所	①
吉村 華子 氏	福光まちづくり塾、セルフリノベーション塾	①
平野 信一 氏	(歴史の道「殿様街道」の整備)	②
水口 幹夫 氏	小矢部川河畔景観再生プロジェクト	②
栗野 秀 氏	オーガニックカフェプロジェクト	③
渡辺 吉一 氏	交流できるまちや里山づくり	③
大森 永遠 氏	地域資源発見隊 FK3	①②③
北島 清 氏	共存共栄の策を考えよう	無
森松 宏介 氏	(アートギャラリーをオープン)	①

令和2年4月～令和3年9月 コロナ禍ということを受け、メンバーからの提案により、会議をしばらく休止

令和3年9月20日 会議再開に向けた準備会議を開催

(参 加 者) 栗野 秀氏、石崎雄世氏、北島 清氏、平野信一氏、水口幹夫氏、吉村華子氏

(検討概要)

- ・このまま話し合いを続けても前に進まない。
- ・これまでの会議で提案された企画案に良い内容がたくさんあったので、それらの企画案を基に、出来るものからやっていけばどうか。
- ・この提言実現検討組織は、その企画案の実施をバックアップする組織となってはどうか。
- ・栗野 秀氏、石崎雄世氏、吉村華子氏が中心となって、企画案の内容確認と取りまとめを、事前会議をとおして行なってみる。

令和3年10月4日、12日、16日 栗野氏、石崎氏、吉村氏が中心となって、事前会議を開催

(概要)・先に提出されている企画案について、中山明美氏、吉村氏、栗野氏、渡辺氏から、それぞれ内容を再確認。また、新たに企画案として、松本千尋氏から取り組みについて話を伺った。

- ・伺った企画案等の内容を踏まえて提言の実現に向けた企画案を取りまとめ、次回の提言実現検討組織の会議での提案に向けて検討・調整

令和3年11月1日福光地域提言実現検討組織会議開催

(参加者) 栗野 秀氏、石崎雄世氏、大森永遠氏、北島 清氏、中山明美氏、平野信一氏、水口幹夫氏、水口芳美氏、森松宏介氏、吉村華子氏、渡辺吉一氏

(内 容) 福光地域まちづくり検討会議からの提言の実現に向けた、具体的な取り組みの検討

※検討の詳細は、同封の会議録をご確認ください。

令和4年3月 25 日福光地域提言実現検討組織会議開催

南砺市まちづくり検討会議 福光地域

提 言 書

平成 30 年 12 月 19 日

南砺市まちづくり検討会議福光地域委員

1. 福光地域の現状と課題

◎福光地域の現状

【強み】

- 四季折々の多彩な風景は「不便さ＝豊かさ」が魅力的と感じる世代にアピールできる
 - ・山に近く自然が豊かで星がきれい
 - ・祭礼行事や農業（営農組合）などで「つながり」や「人づきあい」の強い地域
 - ・「富山干し柿」生産のほか、果樹園、酒造りやワイン造りがある
 - ・若い猟師がいて、ジビエ料理を考えている
 - ・スキー場があり、市外からの利用者がいる
 - ・天然温泉があり、効能がそれぞれ違う
- モノ作りを中心とした工場が多数ある
- 交通のハブである
 - ・国道・県道・高速道路のインターチェンジ・JR 城端線
 - ・金沢と隣接している
 - ・福光駅と商店街が近い
- 松村謙三の生誕地であり、棟方志功ゆかりのまちとしても生涯学習で PR できる
- 他地域にない支援活動がある
 - ・〈ふくみつつ〉が、現在活動中の個人や団体を結ぶ、民間中間支援グループとしてネットワークづくりをしている
 - ・〈ほっこり南砺〉が、地域のお茶の間として「みんなの居場所づくり」をしている
 - ・〈にほんご広場なんと〉が市内在住外国人と地域を結ぶ「多文化共生」をめざしている

【弱み】

- 個々の活動に情報・ネットワークを使った横のつながりがなく、孤立しがちである
 - ・子育て世代や若者や高齢者などが、交流できる機会と情報と場所が少ない
 - ・雨天や積雪時に子どもを連れてゆっくり遊べる場所がない
 - ・住民意識が、まちづくり・地域に関して希薄である
 - ・少子高齢化、若者の市外流出などによる人口減少
- 空き家・空き地・空き店舗の増加が目立つが活用されていない
- まちなかの美しい自然というロケーションを活かしきれていない
- なんバスの土日運休に困る（公共交通が充実していない）

◎福光地域の課題

- 官民一体的な取り組み
- 多様な人たちとの「つながり」「かかわり」づくりの場を創造
- 誰でもいつでも情報を共有できる仕組み・仕かけづくりで、市民と団体が連携
- 福光駅と商店街と小矢部川河川敷を活かしたにぎわいづくり
- 福光福祉会館周辺の宇佐八幡宮や福光公園を訪れる人の利便性と利用率を高め、景観に合わせた居場所を整備
- まちなかと里の結び付きを継続させる企画の立案と実施
- 庁舎統合計画による公共交通網の整備
- 福光高校廃校後の利活用
- 小中学校のスポ少・部活動問題

2. 福光地域が目指す「まちづくりの方向性」

テーマ：今あるものを活かしたにぎわいづくり

- ① 情報の集約と発信できる居場所
- ② まちなかエリアを回遊できるまちづくり
- ③ 里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

3. 「まちづくりの方向性」の実現に向けた具体的な取り組み

①情報の集約と発信できる居場所

<目指すべき姿>

- ・人と情報が交流することで共感を得られる居場所ができる
- ・居場所は多様な相談の受け皿となり、行政や関係機関とつなげたり市民活動を支えたりする

<方策・具体的な取り組み>

- 今ある施設を有効に活用して、幅広いニーズに対応できる居場所づくりを目指す
 - ・「コミュニティカフェ」の併設で、より多くの人が集いやすい環境を整備する
 - ・常駐するコンシェルジュを配し、「丸ごと相談窓口」を機能させる
 - ・市民や地域活動、ボランティアの相談を受けたり支援をしたりする
 - ・助成金の活用で市民活動を支える
- 情報の収集と発信を行うと共に、情報の管理をすることで必要な人に届くようにする
 - ・地域型コミュニティと目的型コミュニティ、あるいは個人や企業などをネットワークでつなげる
 - ・情報の集積場所として web サイトを立ち上げる
 - ・情報発信手段として紙媒体も活用する
- 今ある環境をいかして社会性や経済性を備えた仕組みづくりや空間デザインし、「福福福（ふくみつ）のスタイル」を創る
- 元気な高齢者、障がい者の活躍の場をつくる

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- 市民活動の〈知る〉〈楽しむ〉〈支える〉〈育てる〉〈つなぐ〉〈つなげる〉機能を充実させる中間支援組織となる
- 〈知る〉 情報の集積および発信
 - ・多様な情報を統合した推進拠点として、web サイトを立ち上げる
 - ・「つながりマップ」「あることカレンダー」「これ、できますマップ」「学生が作るまちの情報誌」「地域魅力マップ」を作成し、「見える化」する
 - ・チラシの配架、ポスター掲示
- 〈楽しむ〉 実践の場の提供
 - ・「コミュニティカフェ」「チャレンジショップ」
- 〈支える〉 支援及び交流の促進
 - ・子育てや介護などの悩みや、外国人の生活サポートなどの福祉、婚活支援など、多様な相談の受け皿となり、互助のコミュニティの場を設ける
- 〈育てる〉 人材の育成やアドバイザーの派遣
 - ・「インターンシップ」「やっとりことツアー」
- 〈つなぐ〉 ニーズに応じた人・情報をつなぐ
 - ・地域型コミュニティ（自治会、各種地域団体、まちづくり協議会など）
 - ・目的型コミュニティ（NPO、ボランティア団体、まちづくり団体など）
- 〈つなげる〉 行政や関係機関へとつなげる
 - ・「丸ごと相談窓口」「元気な高齢者、障がい者の活躍の場」

○情報の収集と発信（SNS も活用する）

- 【生活】子育て・お仕事情報・地域行事・サークル活動・お店情報
- 【福祉】ボランティア活動・地域包括ケア・多文化共生
- 【観光】里山農林体験・体験ハウス・観光情報
- 【行政】行事・支援情報・人材育成

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・「コミュニティカフェ」、「丸ごと相談窓口」等、幅広いニーズに対応できる居場所スペースの確保
- ・Wi-Fi 環境の整備
- ・いろんな団体や行政との連絡体制の整備

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・地域型コミュニティ（自治会、各種地域団体、まちづくり協議会など）や目的型コミュニティ（NPO、ボランティア団体、まちづくり団体など）、あるいは個人や企業、大学などが、さまざまな活動を実践するとともに、つながりや交流が生まれる「居場所」として位置づけることで、応援し合う住民関係が作られる

②まちなかエリアを回遊できるまちづくり

<目指すべき姿>

- ・福光駅・庁舎周辺～福光福祉会館周辺～中央図書館を結ぶ「福福福（ふくみつ）トライアングル」という回遊できるエリアで豊かな時間を過ごすことができる
- ・親しみのある神社や公園に親子・高齢者・地域の人が集い、健康づくりをしたり、まちの歴史を感じたりして、楽しめる環境をつくることでまちなかを活性化

<方策・具体的な取り組み>

○駅周辺

- 小矢部川から宇佐八幡宮や福光福祉会館周辺に向けて、まちなかを通る多彩なコースを設け、看板やマップで案内したり、QR コードでマップ表示したりする

- ・〈健康目的〉四季を感じるウォーキングコースやまちの名所を巡るお散歩コース
- ・〈学習目的〉棟方志功の足跡巡りや松村謙三の偉業巡り
- ・四季を感じる地点や SNS 映えエリアを案内
- ・小矢部川沿いの空き家を、四季の風情を楽しめるカフェ、授乳室、多目的トイレ、休憩所などに活用

- 福光福祉会館周辺は、ゆったり過ごしたい人が交流する全天候型の居場所とし、福光公民館とのつながりを持たせ、多世代で利用できるエリアをつくる

- ・「カフェ＋あそび場（親子連れ）＋ゆったり長居できる（多世代）スペース」で、集まりやすい場所
- ・景観に配慮したデザインで軒下の長い屋根付きスペースでは、朝市、マルシェの開催やテラスカフェもできる
- ・外部からも見えるようなシェアキッチン設備で、みんなで料理ができる
- ・授乳室を設けて赤ちゃん連れに配慮し、障がい者も利用しやすい造りにする
- ・だれでも利用しやすい多目的トイレにする
- ・朝市夕市マルシェ開催で、里・農家とのつながりを活かす。
- ・地元の新鮮な食材や、若い猟師によるジビエ料理を、キッチンカーやマルシェの食材として提供する

- まちなかの空き家や空き店舗を活用して「お散歩の駅」をつくる

- 中央図書館は施設全体を有効活用して、幅広いニーズに対応できる居場所とする

- ・図書館機能＋コミュニティカフェ＋丸ごと相談窓口
- ・市民活動を〈知る〉〈楽しむ〉〈支える〉〈育てる〉〈つなぐ・つなげる〉役割でコーディネートし運営する

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・福光福祉会館周辺の居場所として携わる人材の育成やアドバイザーの派遣
- ・観光ガイドグループと連携して回遊性を活かした多彩なコースを作り、まちなかに人の流れを作る
- ・距離を表示し、わかりやすくする
- ・まちなかや小矢部川周辺にベンチを設置する
- ・「お散歩の駅」として空き家を利用して、子ども連れや高齢者などにやさしい空間（多目的トイレ・授乳室・休憩所・カフェ）を設える

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・駐車場整備
- ・福光福祉会館周辺に居場所の新設
- ・Wi-Fi 環境の整備

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・居場所を利用する人の駐車の手がかりが解決される
- ・まちなかにある元々恵まれている自然を活かすことができる
- ・まちなかの回遊できるエリアで人の流れにより活気が出る

③里山とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

<目指すべき姿>

- ・豊かな自然にあふれた里山とまちなかの関係や取り組みを知る
- ・里山の魅力を再発見し、まちなかの「福福福（ふくみつ）トライアングル」とのつながりを深める

<方策・具体的な取り組み>

- 里山とまちなかのつながり
 - ・自然と触れ合う機会をつくる目的で、行政やボランティア団体と共に小矢部川の環境を良くしていく活動をする
 - ・坪地主制度による農作業体験や半農半 X のライフスタイルの推奨
 - ・郷土学習を学校教育に反映させる（刀利ダムと水など）
 - ・空き家対策の一つとして民泊事業を行い、移住対策としてツアーコーディネートをする（空き家見学、農林業体験、田舎暮らし体験、研修など）
 - ・地元特産品を飲食店で提供し、市民が楽しみ、そこから拡大を図る（酒、ワイン、干し柿、かぶら寿司など）
 - ・朝市夕市やマルシェなどに農産物提供でつながる
- 里山の魅力
 - ・キャンプや野外あそびを作り行き来する
 - ・農作業・収穫体験を耕作放棄地で行う
 - ・里山の職業セミナー（農林業・製造業・加工業など）で体験する
 - ・里山マイスター（歴史や郷土料理など）から学ぶ
- 福光美術館への松村記念館移設を検討し、棟方志功や石崎光瑤とあわせて地域ゆかりの偉人として広く来館者に知ってもらう
- 金沢方面からの入り口としての地理的利点を活かし、観光客の引き込みやインバウンド誘致を充実させる

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・地域型コミュニティと目的型コミュニティ、あるいは個人や企業などをネットワークでつなげて、情報の収集と発信をする
- ・里山とのつながりを作り出すマップ作り（行きたくなるマップ）
- ・行政やボランティア団体と共に、里山から流れる小矢部川の環境を良くしていく活動

- ・郷土の歴史や料理、職業などを学ぶ機会をつくる
- ・民泊事業の推奨
- ・季節を感じる農作業・収穫体験、野外遊び
- ・市場・マルシェの里山で取れた農産物の販売

＜この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）＞

- ・小矢部川の環境保全
- ・移住者対策
- ・就農支援
- ・民泊事業の推奨
- ・松村記念館の移転

＜この取り組みによって解決できる課題＞

- ・多様なニーズを持つ移住者へのフィードバック、PR 効果
- ・地域に暮らす人たちの地元への愛着の醸成
- ・「里山」と「まちなか」の交流促進、良好な連携協力関係の構築

福光地域まちづくり検討会議からの提言書

今あるものを活かした にぎわいづくり

- ① 情報の集約と発信できる居場所
- ② まちなかエリアを回遊できるまちづくり
- ③ 里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

これまでの議論を踏まえて、福光地域提言実現検討組織として以下を企画し、提言の実現に向けて進めていきたいと考えています。

目指す未来

古きを活かし新しき暮らしを創るまち

めまぐるしく変化する世界で、次々と出ては実行されずに消えていくような夢や挑戦の芽を見つけ、育てる仕組みをつくる。古いものも新しいものも活かす多様で創造的な人が育ち、集まり、話し合えるまちする。

その未来にするためのプロジェクト

小矢部川からはじめる新旧街里プロジェクト

まずは空き家を自分たちで改装し、その過程で人を集める。そうやって街と里に人々が交流できる拠点をいくつか作り、新しいアクション（なりわい）を起こせる人、移住する人を増やす。特に住民の多くが想いを寄せる小矢部川周辺で、イベントをしたり、にぎわいスポットを作って、住む人や訪れる人が交流し、まちと里とのつながりを楽しめるようにする。

そのためのアクション

1. アキないづくり

- a. セルフリノベーション塾 … 創造・挑戦する人を育て、繋ぐ
- b. 手打ちパスタカフェ … オーガニック野菜を内外に発信
- c. 農泊体験 … 街と里と両方の暮らしを堪能する体験を提供

提案者 提言との関連

吉村氏	①
栗野氏	③
渡辺氏	③

2. 小矢部川

にぎわいづくり

- a. 川沿いの環境整備 … 寛げる場にして、福光のシンボルを未来へ繋ぐ
- b. 河原でのマルシェ開催 … 環境や食のイベントを行う
- c. 川沿いの空き家の有効活用 … 宿泊、キッチン、交流の場にする

水口氏	②
松本氏	③
中山 ^晴 氏	②

3. 情報の集約と発信

- a. たまり場 … 情報の集約場所をつくる
- b. なんと新聞福光版 … 市の HP、SNS や広報、回覧板等で発信

中山 ^晴 氏	①
吉村氏	①

アクション概略

1. アキないづくり 空き家をなくす、商いをつくる、飽きない魅力的な街にする

セルフリノベーション塾

創造・挑戦する人を育て、繋ぐ

- ・まちなかの空き家を 100 ～ 150 万で住める（または商いできる）ようにする技術を専門家から学べる塾の開催
- ・井波の佐々木棟梁や工務店、建築家に講師を依頼
- ・年 18 回（月 2 回）の講座開催で 1 棟完成させる
- ・移住や起業を考えている人を中心に 10 名程度募集
- ・各回 YouTube で配信、福光の PR 動画にもなる
- ・見学 1 回のみの飛び入り参加も設定し、間口を広げる
- ・塾生には、福光移住につながる情報や交流の場を設ける
- ・移住や起業への支援等、塾生の移住起業へつなげる

手打ちパスタカフェ

オーガニック野菜を内外に発信

- ・セルフリノベ塾の 1 棟目のシェアキッチンを活用して営業（週 3 回程度）
- ・1 年間で料理人を募集、育成
- ・南砺のオーガニック野菜を使った加工品や惣菜なども販売
- ・ネットショップも利用して全国に南砺の食を発信
- ・スタートから 1 ～ 2 年程で小矢部川沿いの空き家を使った新店舗で独立

農泊体験

街と里の暮らしを両方堪能する体験を提供

- ・まちなかと里の両方で福光を体験できる長期 / 短期宿泊できるゲストハウス・シェアハウスをつくる
- ・なんとのおねや半年で 100 名を超すなべちゃん農場の農泊希望者などに、日中は、福光の里で農業体験し、夜は福光のまちなかで飲食する福光ならではの暮らしを体験してもらう。夜の居酒屋で地元の人との交流も可能
- ・里のゲストハウス・シェアハウスでは目の前の畑や田んぼで体験しつつ、交流できる。まちなかのゲストハウスと連携して 1 回の体験で里と街のどちらにも滞在できるようにする
- ・農業体験メニューの発信。田植え、草刈り、稲刈り、野菜の収穫、麻織り体験、豆腐屋体験、味噌麹体験など、現在でもメニュー豊富

2. 小矢部川にぎわいづくり

福光の名所を整備活性化。住む人、訪れる人の心のよりどころとなる場を作る。賑わいをまちなかへの波及させる

川沿いの環境整備

寛げる場にして未来へつなぐ

- ・桜が歯抜けになっている天神地域に桜を植樹
- ・寛げる美しい景観にする
- ・河川公園の花壇やベンチを整備
- ・公衆トイレの増設
- ・テニスコートの修復

河原でのマルシェ開催

環境や食のイベントを行う

- ・地域の人や塾生などと協力して河川清掃をする
- ・環境や食がテーマの種まきキャラバンマーケットやマルシェ、リノベ済の家や河川敷を利用した環境や食のイベントの開催をする

川沿いの空き家の有効活用

宿泊、キッチン、交流の場にする

- ・まかない食堂として、日替わりランチや農夫漁師の料理、クッキングスクール、配食などに利用
- ・宿泊や仕事等、様々な人が気軽に入り交流できる場とする
- ・なんと里山ツーリズム「なんチャリ」の拠点にする

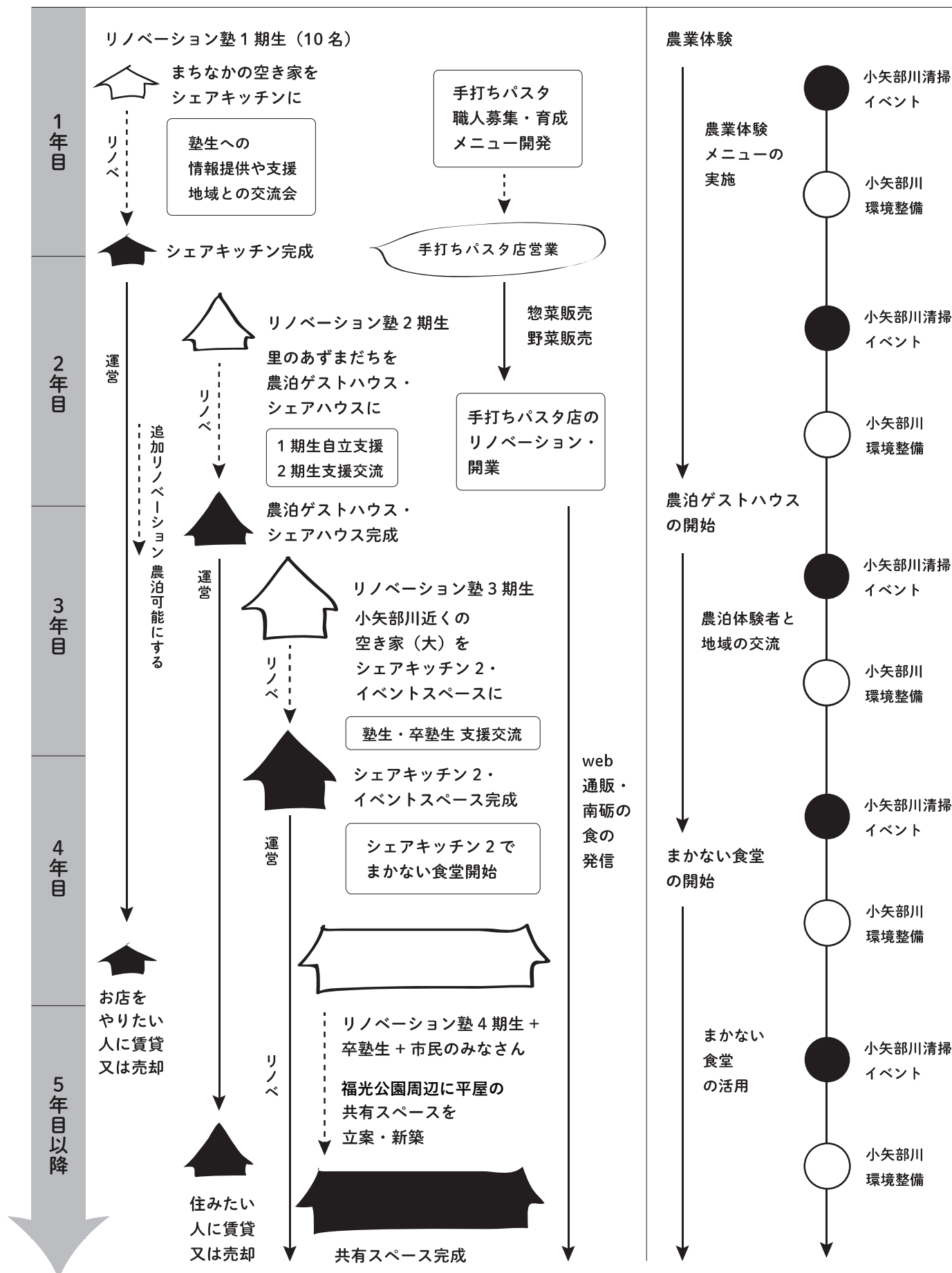
3. 情報の集約と発信

（3の内容については、11/1に説明させていただきます）

スケジュール

1. アキないづくり

2. 小矢部川にぎわいづくり



SELF RENOVATION SCHOOL

セルフリノベ 塾

福光

企画案

手段

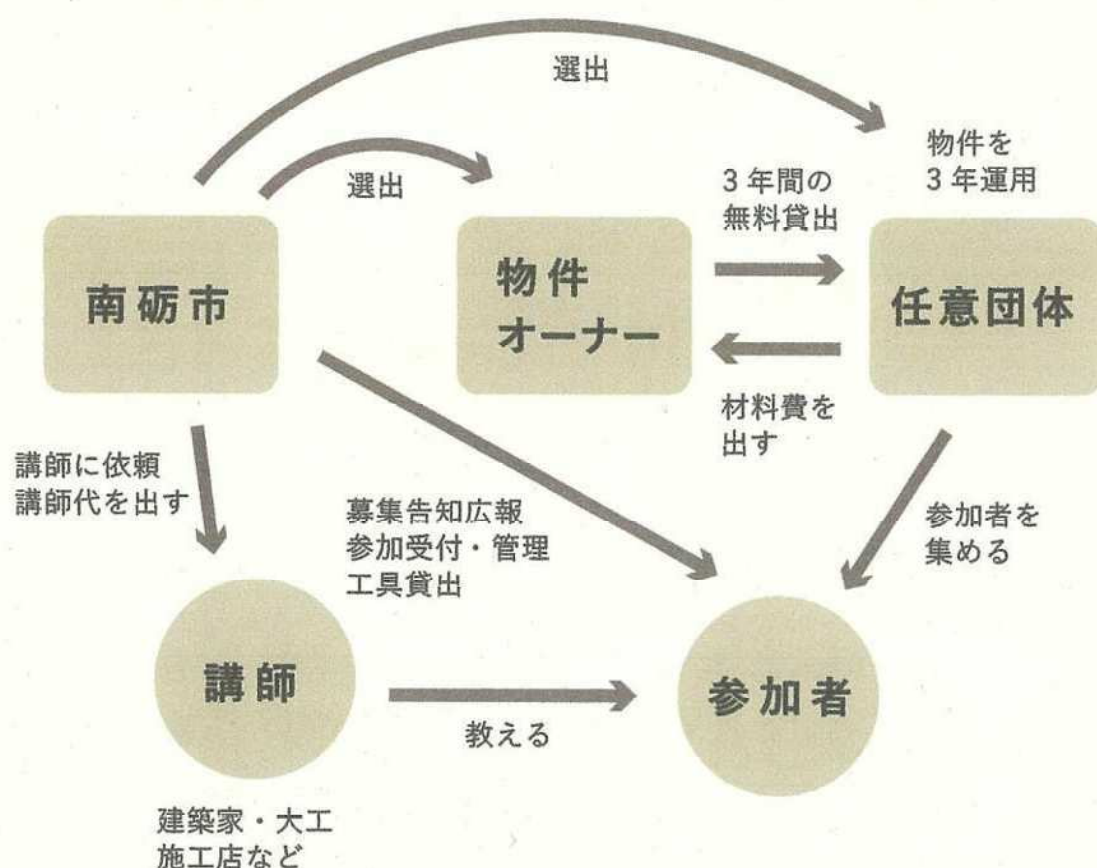
材料費のみの支出で、住めない家を欲しい場所に自分たちで作り変えて活かす。その技術や心をプロが教える塾を開く。

- 空き家になっている古い家を1軒、市民の手で改修し、その手法を講師から学ぶ。
- 講師は宮大工や建築家、腕のいい工務店など、都会の人から見てもぜひ技術や生き方を学びたいと思う人に依頼する。
- 公平性・公共性を期するため、補助金はスクール運営のみに使う。家は賃貸で、材料費（100万～150万円程）はその場所を借りて運営する団体が出す。そのオーナー・団体の公募・選出も行う。
- オーナーは工事期間+3年間無料貸し出しをする、代わりに住めないような家をリノベーションされた状態で返してもらう。団体は材料費を出す代わりに、3年間場所を使用できる権利を得る。市はスクール運営の経費を出す代わりに、古民家問題の解消と、活気をつくる足がかりを得る。

未来

まちなかの商店街や散居村が福光の持続可能な魅力となる。
自分で何か動こうという意欲ある人が繋がり、集う地域になる。

- お金をあまり掛けずに直せるようになれば、普通の人々が古民家に住むことができ、古い魅力のある家が生きる。福光の古くからある街並みや散居村が生き、魅力となってそこに住む理由となる。
- いま古い家に住んでいて困っている市民もたくさん存在する。そんな人たちが自分たちで自分家を良い状態に家を保ち、助け合うことができるようになる。
- 南砺市外からも参加者を募集する。手間を掛けること、いろんな人に助けてもらうことで街に愛着がわき、繋がりができる。その人たちが遊びに来たり、移住したり、お店を開くことも出てくることも期待できる。（すでに1件見込みあり）



概要

開催日時	第1期 2023年春～2024年春 全18回（月2回）
主催	南砺市・福光まちづくり組織
場所	福光のまちなかの空き家1軒を募集 100万～150万円で直せる程度の物件を選定、応募がなければ依頼する
任意団体	福光の街中の賑わいづくりに寄与する可能性の高い団体を募集、選定する
参加者	10名程度、各回聴講生、加えて、学生など 応募多数の場合、福光への移住や起業を考えている人を優先する 見学1回のみ飛び入り参加も設定、間口を広げる
その他	塾生には、福光移住や開業につながる情報や交流の場を設ける 各回 Youtube で配信。福光の PR 動画にもなる 月2回以外の合間には、任意団体を中心にリノベーションを進める 18回の授業で物件の選定・設計～開業/移住までの授業を行う

この企画のデメリット・メリット

家主

- × 物件を4年間無料提供し、その間の固定資産税の支払いが必要
- リノベーションと物件が有名になることにより、事後の賃貸や売買が容易になる
- ※ 長期間、借り手や買い手が見つからないような物件であれば家主に利益がある

任意団体

- 物件の3年間の無料貸与を受けられる
- × 材料費は支払う必要がある
- × リノベーション期間中は主体的に参加する必要がある、多大な時間が取られる
- 開業する前から知名度と、ある程度の常連客が見込める
- ※ 3年間で材料費以上の利益や固定客が得られれば任意団体に利益がある
- 家賃が5万円として3年で約150万円。それ以内に材料費を納めないと不利になる。
- 年50万円以上の利益を出すのは相当大変と思われる。

参加者

- 全く知り合いや土地勘のないところで、物件探しから移住や開業までの知識と実践経験、サポートが得られて、仲間づくりもできる。
- その道のプロに直接教わることができ、youtubeでおさらいもできる。実践の場も多数用意される。
- × 全20回の受講時間を捻出するのが大変

南砺市

- 南砺市の宣伝を皆が無償でやるので、費用対効果の高い可能性のあるプロジェクトである
- × 講師代や工具代などを支出する
- × 初めての試みなので、ケガや、想定通り上手くいかないなど、失敗する危険がある

講師

- 仕事として講師代を得られる
- 地域の未来のために貢献ができる
- × 初めての試みなので、何が起きるか分からない不安と煩わしさ、危険がある。
- × 報酬以上の仕事量である可能性がある
- × 素人や仕事でない人と一緒にやることで、真剣さに差があり、それによる危険がある

カリキュラム全 18 回

- 1 調査・家の妄想
- 2 補助金・確認申請・設計 1
- 3 設計 2・家の購入・賃貸契約
- 4 解体・採寸・設計 3
- 5 予算とのすり合わせ・設計 4
- 6 道具と材料を揃える・プレカット
- 7 床下・床断熱材
- 8 床板張り
- 9 屋根を直す・外壁を直す
- 10 壁断熱材取り付け
- 11 天井下地と天井断熱材・天井張り
- 12 建具枠取付け・石膏ボード張り
- 13 キッチン制作・水洗金具・シンク取付
- 14 浴室工事・電気配線・給水配管工事
- 15 タイル張り・壁仕上げ・漆喰塗り
- 16 コンセントなど取付・建具工事・便器取り付け
- 17 洗面台・家具をつくる
- 18 経営計画・開店準備・プレオープン準備

入塾までに 入塾課題
オリエンテーション
条件を出して妄想
古民家を探す
入塾式

開催中 合宿

修了後 卒塾式

スケジュール

2022 年 4 月検討会実現組織発足

2022 年 5 月 1 回目住民説明会 講師交渉

2022 年 6 月 2 回目住民説明会

2022 年 8 月カリキュラム・要綱決定

2022 年 9 月～2023 年 2 月 塾生募集 北陸・首都圏で PR イベント開催

2023 年 2 月塾生選考・決定・連絡

2023 年 3 月オリエンテーション

4 月開講式

7 月末合宿

都度 SNS にて進捗報告、毎回 youtube アップロード、3 か月毎に報告

予算概算

支出例	普通に依頼した場合		グレードダウンした場合の最低価格
全体管理	月 20 万 × 12 か月	240 万	(最低 20 万)
動画制作	1 回 10 万 × 22 回	220 万	(最低ボランティア)
講師料	1 回 20 万 × 22 回	440 万	(最低 3 万 × 10 回で 30 万)
講師旅費	1 回 5 万 × 8 回	40 万	(最低支給なし)
工具レンタル	1 回 3 万 × 10 回	30 万	(最低持ち寄り)
収入			
受講料	2 万円 × 12 人	24 万	3 万～5 万くらいなら大丈夫かもしれない

講師候補 (あくまで候補であり、まだ打診していない方もいます)

コーディネート	長尾友哉氏	福光出身、石川県在住の一級建築士。3 月に味噌屋町に事務所を構えた。金沢のリノベーション設計事務所に勤務経験がある。
設計	中村好文氏	南砺と縁がある、台所の設計が得意（台所だけで本 2 冊発行）で、そのキッチンで料理をしてみたいという気を起させる。プロも学びたい建築士で、都市圏からの参加増が見込める。
大工	佐々木棟梁	福光出身福光が本拠地の宮大工、佐々木建築代表。赤坂御所から地元のお寺まで沢山の神社仏閣を手掛ける傍ら、地元物件のリノベーションにも関わる。
	地元工務店・大工・材木屋	まだ調整できていないが、なるべくたくさんの方に関わっていただきたい。